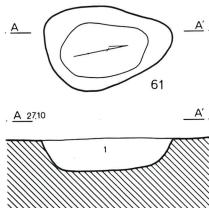
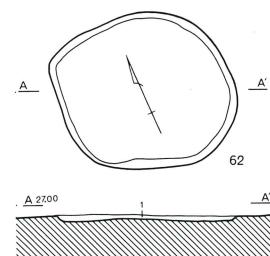


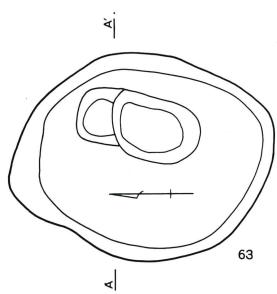
第60号土壤土層  
1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。



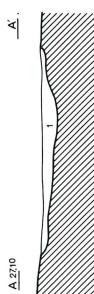
第61号土壤土層  
1 暗褐色土



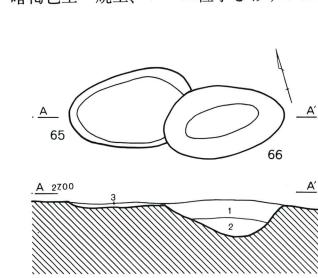
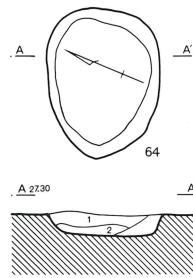
第62号土壤土層  
1 暗褐色土 焼土、ローム粒子をわずかに含む。



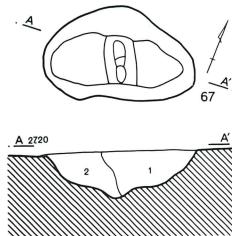
第63号土壤土層  
1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。



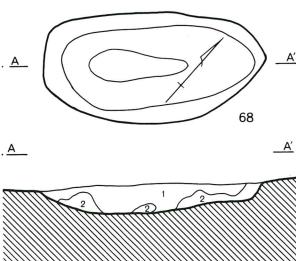
第64号土壤土層  
1 黒褐色土 混有物をほとんど含まず、しまりなし。  
2 黒褐色土 ローム粒子を少量含み、しまりなし。



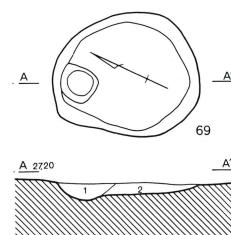
第65号土壤土層  
1 黒褐色土 ローム粒子、炭化物を含み、しまり弱い。  
2 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。  
3 褐色土 ローム粒子を含み、しまり弱い。



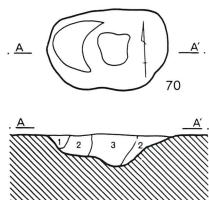
第67号土壤土層  
1 暗褐色土 ロームブロックやや多く、焼土をわずかに含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む。



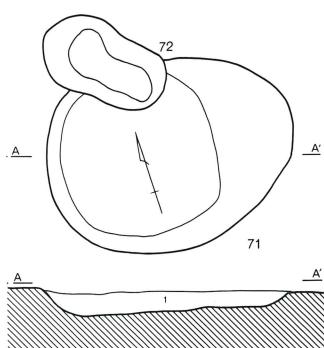
第68号土壤土層  
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。  
2 明褐色土 褐色土を少量含み、しまりなし。



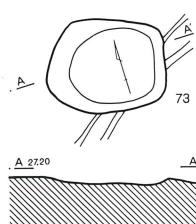
第69号土壤土層  
1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。  
2 黒褐色土 ローム粒子、焼土を少量含む。



第70号土壤土層  
1 褐色土  
2 褐色土 ローム粒子を含む。  
3 褐色土 黒色土、焼土を含む。

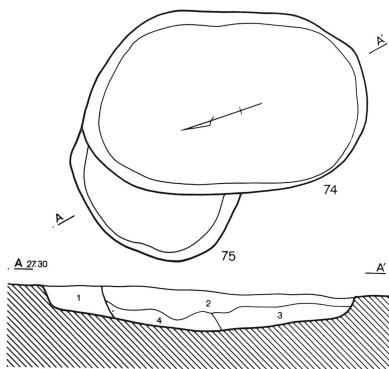


第71号土壤土層  
1 暗褐色土 ロームブロックを含み、しまりなし。



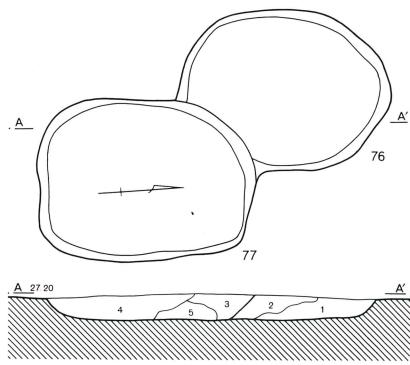
0 2m

第208図 第60~73号土壤



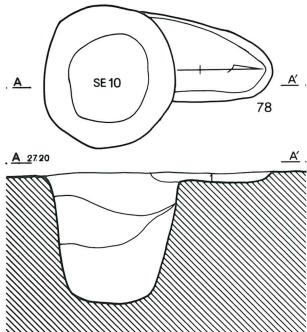
第74・75号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多く、ロームブロックをまばらに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多く含み、やや暗い。
- 4 黒褐色土 ロームブロックをまばらに含む。



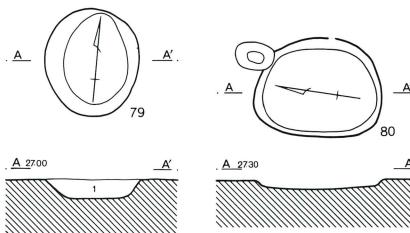
第76・77号土壤土層

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含み、しまり持つ。
- 4 暗褐色土 ローム粒子をまばらに含み、しまりなし。
- 5 暗褐色土 4層に近似するが、しまり持つ。



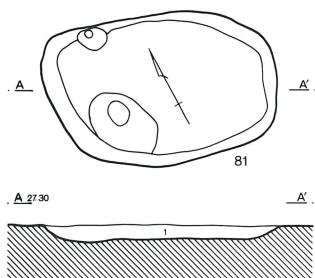
第78号土壤土層

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。



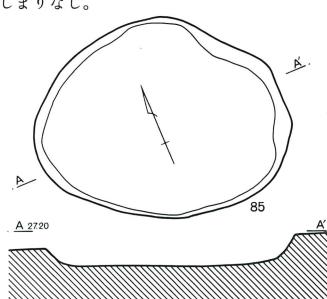
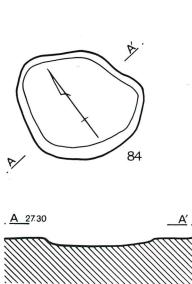
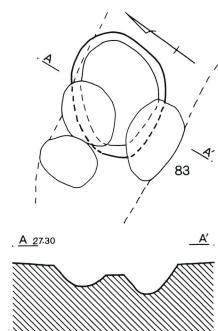
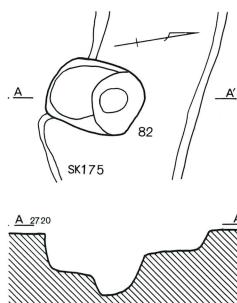
第79号土壤土層

- 1 茶褐色土 小礫をやや多く、焼土を少量含む。



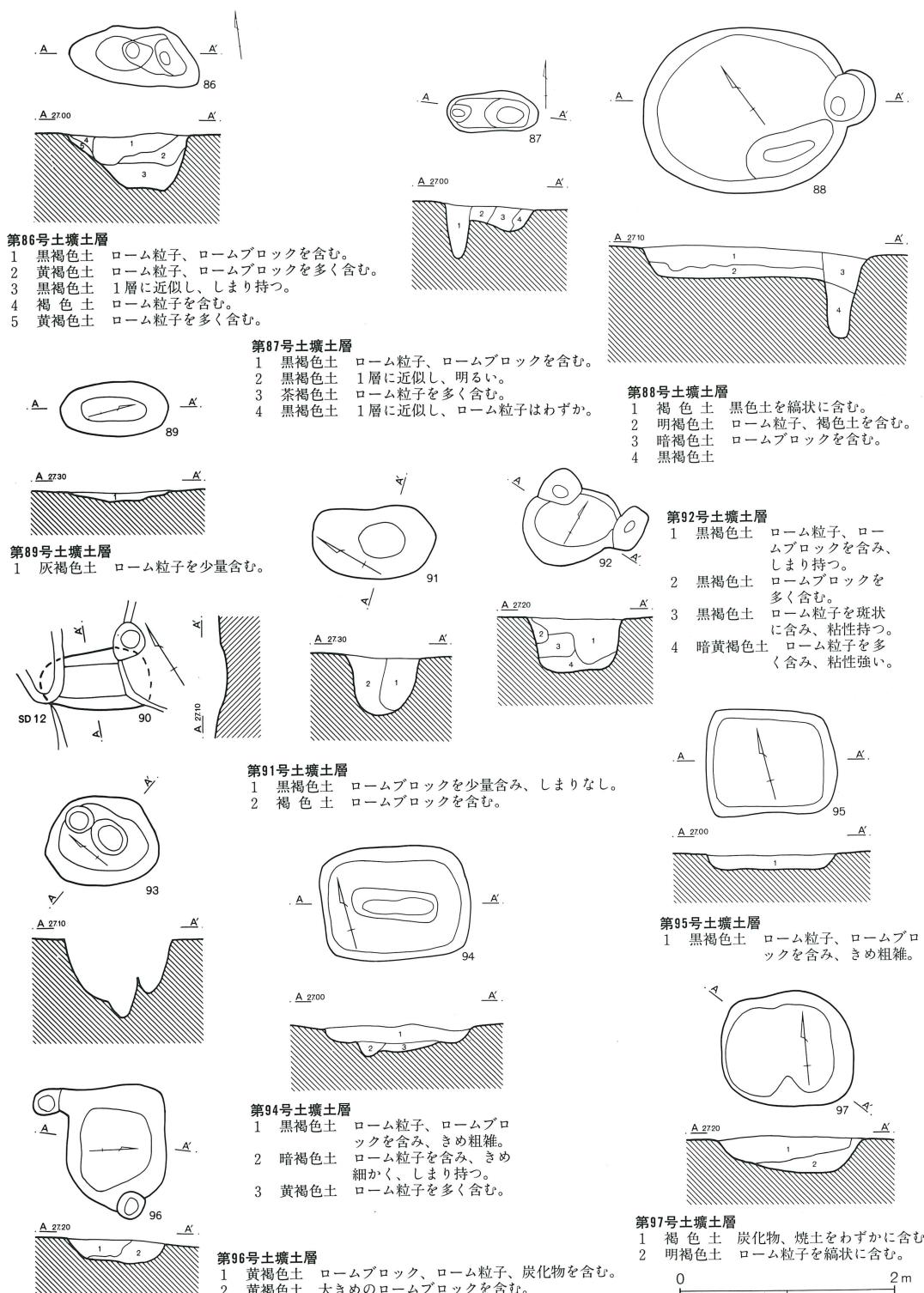
第81号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含み、しまりなし。

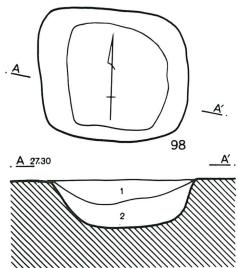


0 2m

第209図 第74～85号土壤

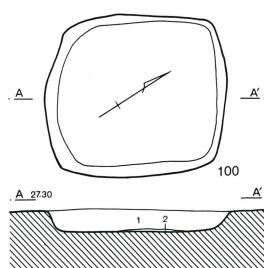
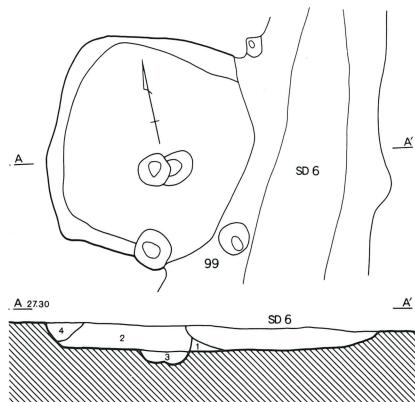


第210図 第86～97号土壤



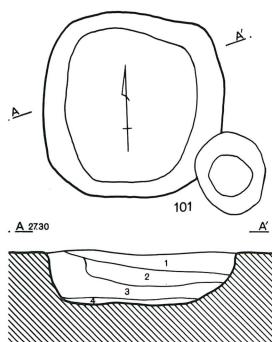
第98号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックを少量、炭化物をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。



第100号土壤土層

- 1 褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 黒色土

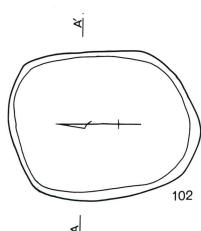


第101号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 明灰褐色土 ローム粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 4 黑褐色土 ローム粒子をやや多く含む。

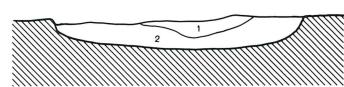
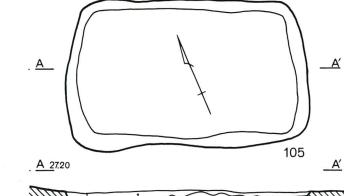
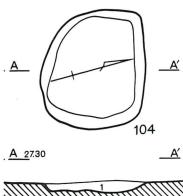
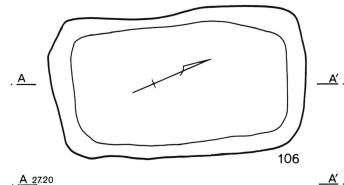
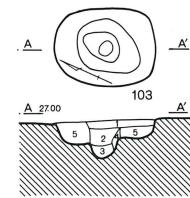
第99号土壤土層

- 1 黄褐色土
- 2 暗褐色土 大粒のロームブロックを含む。
- 3 褐色土
- 4 暗褐色土



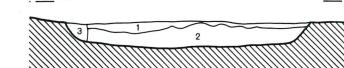
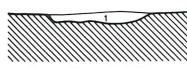
第103号土壤土層

- 1 褐色土 ロームブロックを含み、しまり弱い。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含み、しまりやや弱い。
- 3 灰褐色土 粘土ブロックを多く含む。
- 4 褐色土 ローム粒子を含み、しまりやや持つ。
- 5 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。



第106号土壤土層

- 1 黑褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 2 黑褐色土 ロームブロックの混土層。

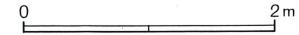
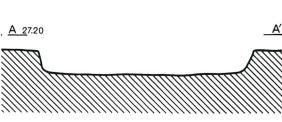
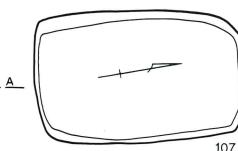


第104号土壤土層

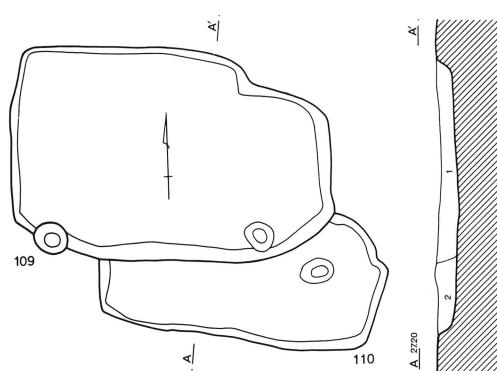
- 1 暗褐色土

第105号土壤土層

- 1 黑褐色土 ロームブロック、黒色土を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 褐色土 ローム粒子を多く含み、きめ細かい。

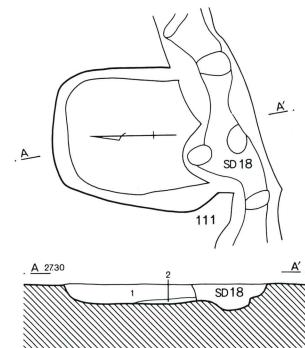


第211図 第98～108号土壤



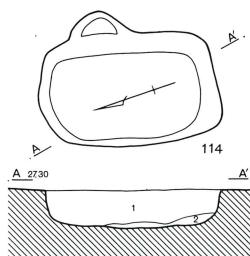
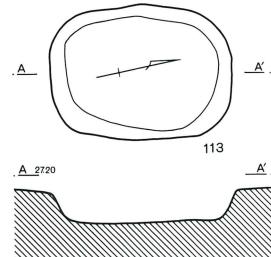
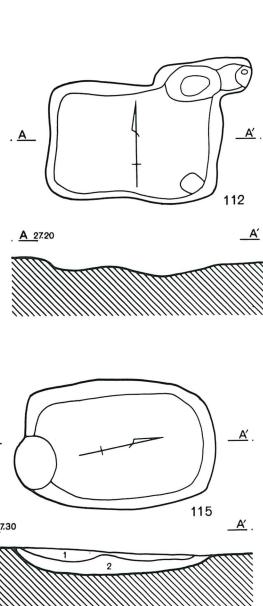
第109・110号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子を少量含む。  
2 褐色土 ローム粒子、炭化物、焼土を含む。



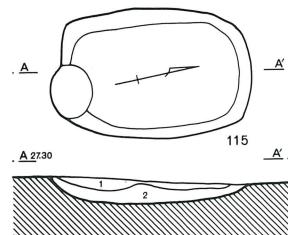
第111号土壤土層

- 1 褐色土 ロームブロックを含む。  
2 黒色土



第114号土壤土層

- 1 褐色土 ロームブロックを少量、焼土を微量に含む。  
2 黒色土

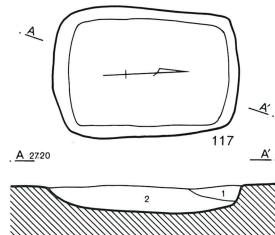


第115号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。

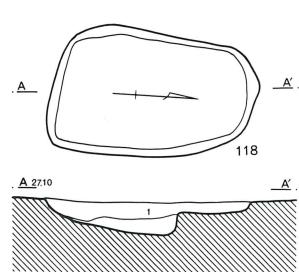
第116号土壤土層

- 1 褐色土 ローム粒子を霜降り状に含む。  
2 黑褐色土 ロームブロックを少量含む。  
3 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。



第117号土壤土層

- 1 褐色土 ロームブロックが多い。  
2 黑褐色土 ローム粒子を霜降り状に含む。

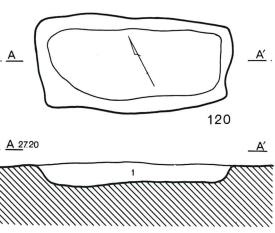
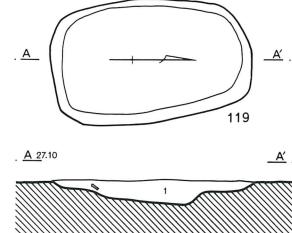


第119号土壤土層

- 1 黑褐色土 ロームブロックを少量含む。

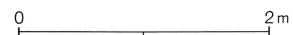
第118号土壤土層

- 1 黑褐色土 ロームブロックをわずかに含む。

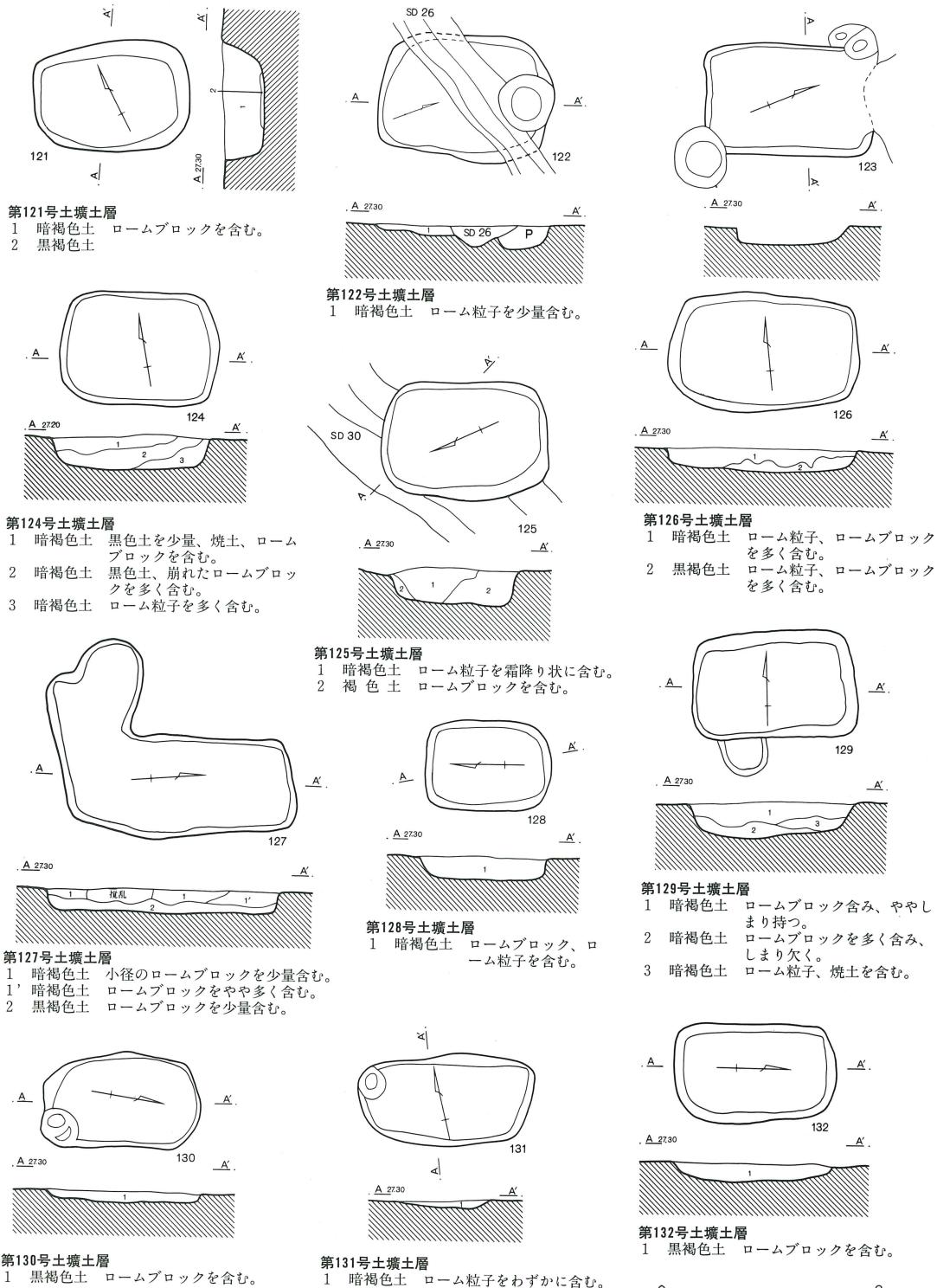


第120号土壤土層

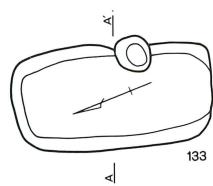
- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。



第212図 第109～120号土壤

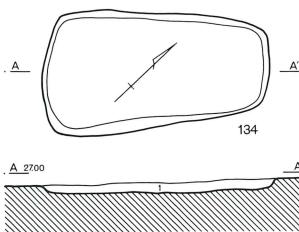
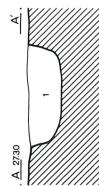


第213図 第121～132号土壤



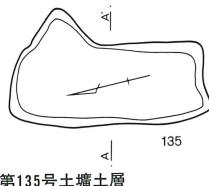
第133号土壤土層

1 暗褐色土 ロームブロックを霜降り状に含む。



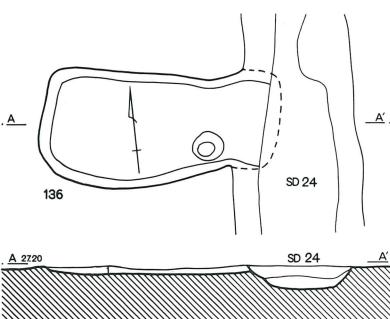
第134号土壤土層

1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。



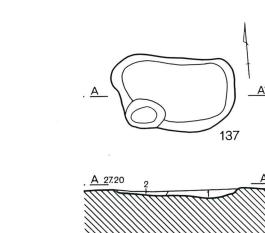
第135号土壤土層

1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。



第136号土壤土層

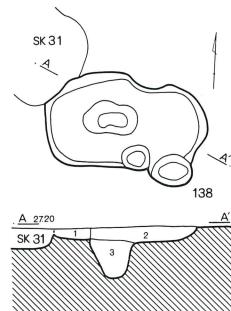
1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。



第137号土壤土層

1 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

2 褐色土 ローム粒子を含む。

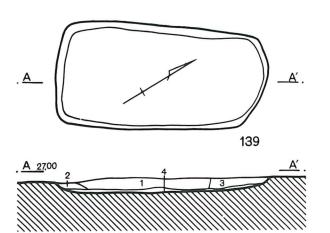


第138号土壤土層

1 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。

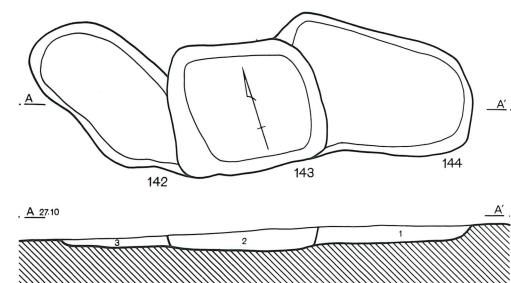
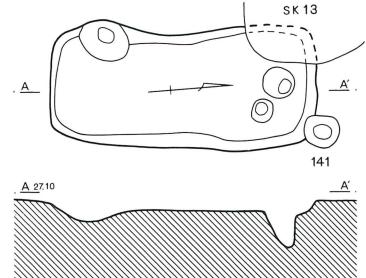
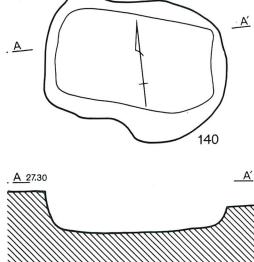
2 褐色土 ローム粒子を含む。

3 褐色土 ローム粒子を多く含む。



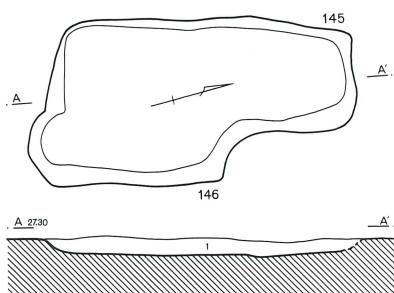
第139号土壤土層

1 暗褐色土 ローム粒子をほとんど含まず。  
2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。  
3 黑褐色土 褐色土粒子を少量含む。  
4 灰褐色粘土 硬く踏み固められている。



第142・143・144号土壤土層

1 黑褐色土 ローム粒子、焼土を少量含む。  
2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。  
3 褐色土 しまり弱い。

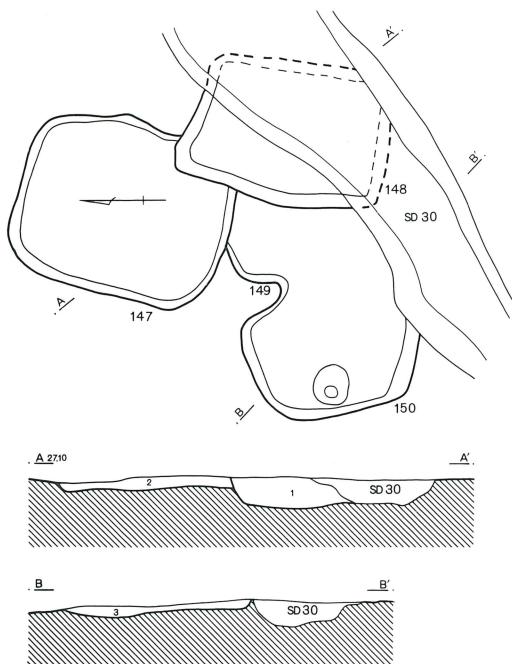


第145号土壤土層

1 褐色土 褐色土とロームブロックとの混土層で、炭化物を少量含む。

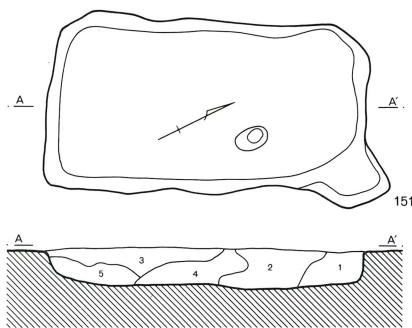
0 2m

第214図 第133～146号土壤



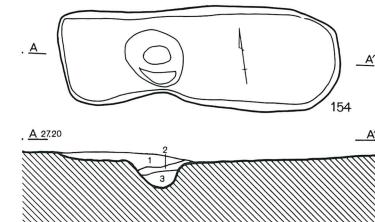
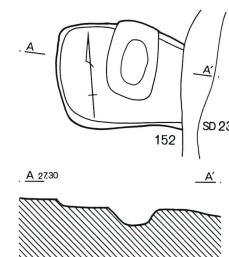
第147・148・150号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックとの混土層。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒子を少量含み、しまり弱い。



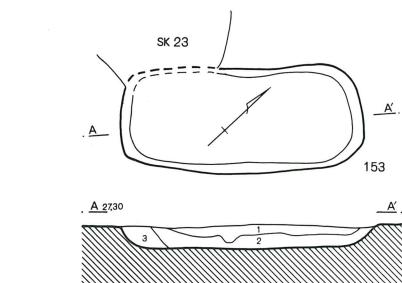
第151号土壤土層

- 1 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックをまばらに含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。



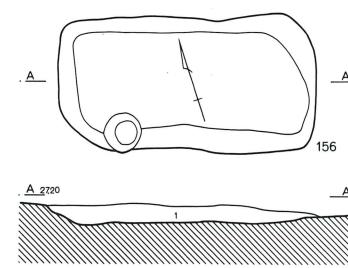
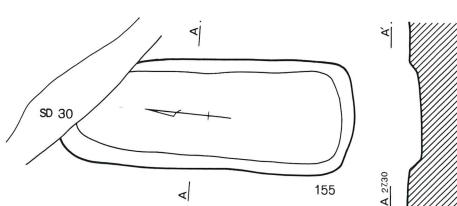
第154号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含み、しまり弱い。
- 2 黄褐色土 ローム粒子を多量、褐色土を少量含む。
- 3 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。



第153号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 2 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 黑褐色土 ローム粒子を多く含む。

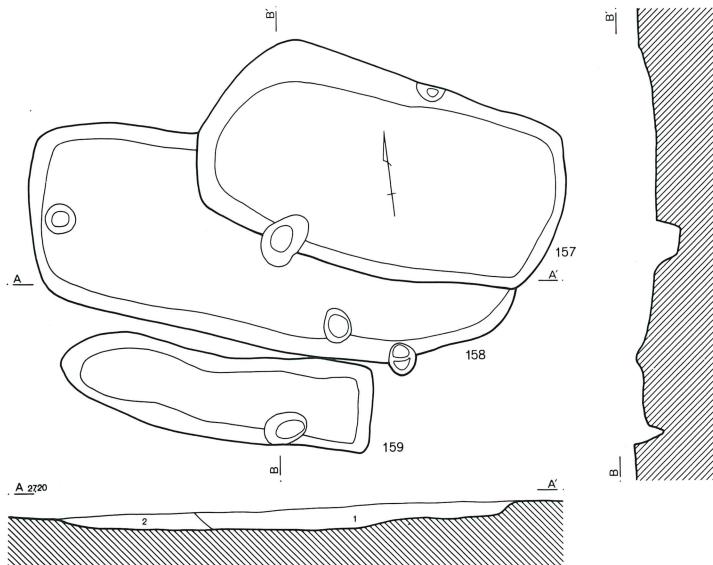


第156号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。

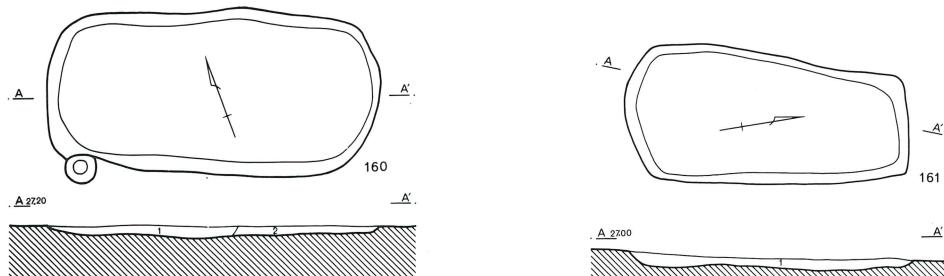
0 2m

第215図 第147～156号土壤



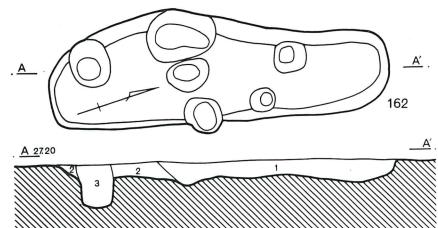
第157・158・159号  
土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。  
2 褐色土 ローム粒子、炭化物、焼土を含む。



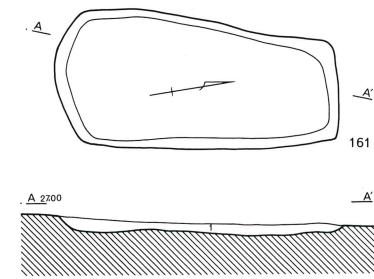
第160号土壤土層

- 1 黒褐色土 ローム粒子をまばらに含み、しまり持つ。  
2 黄褐色土 ローム粒子を多く含み、しまり弱い。



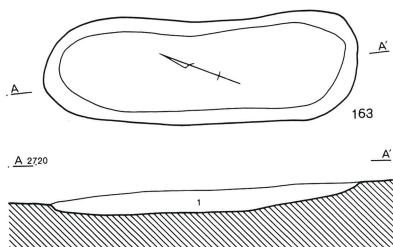
第162号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。  
2 褐色土 ローム粒子を多く含む。  
3 褐色土 ローム粒子を含み、しまり持つ。



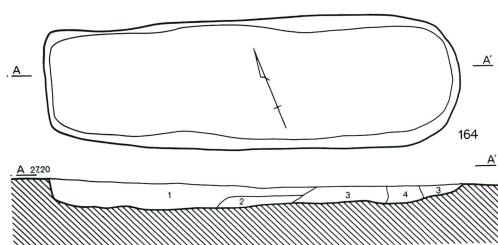
第161号土壤土層

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。



第163号土壤土層

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。

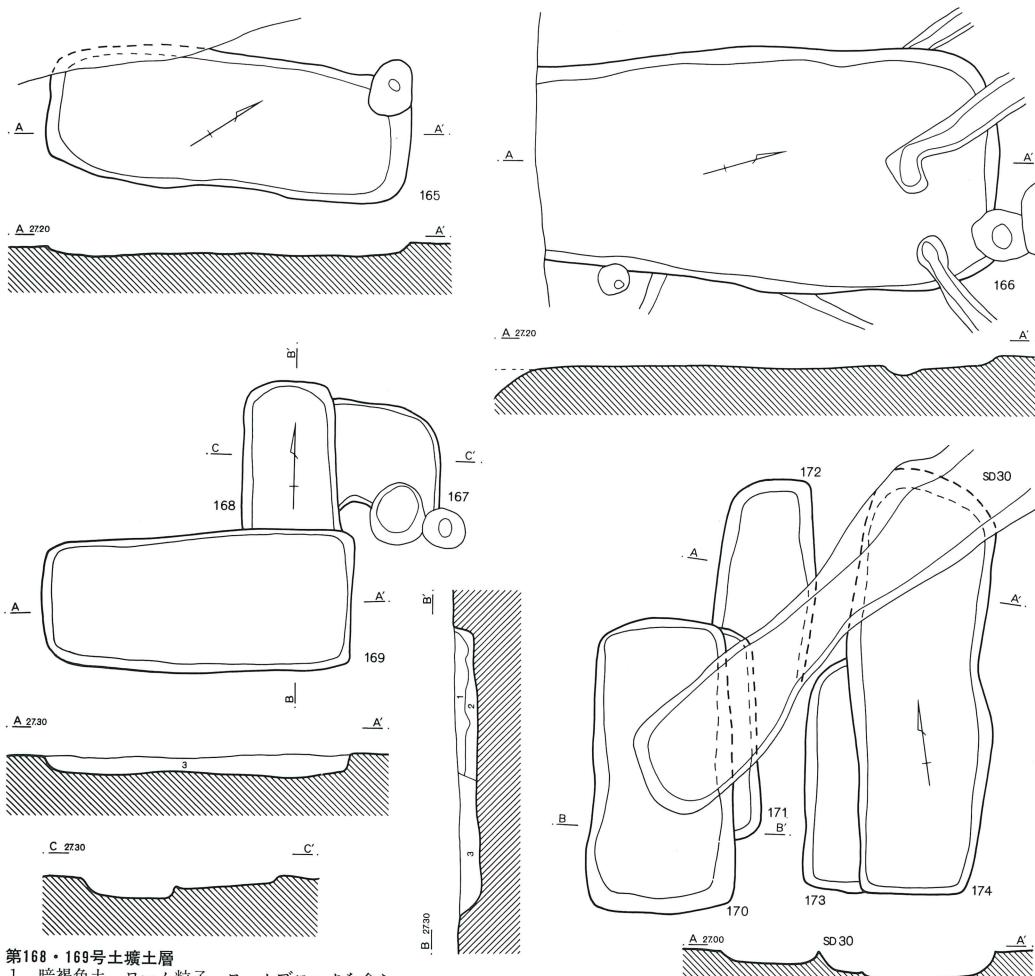


第164号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含み、しまり持つ。  
2 暗褐色土 混有物をほとんど含まず。  
3 黄褐色土 ロームブロックを含む。  
4 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

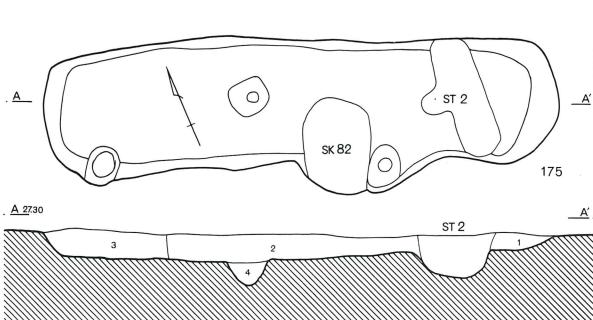
0 2m

第216図 第157～164号土壤



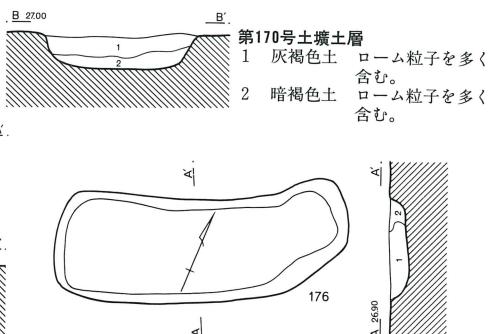
#### 第168・169号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。



#### 第175号土壤土層

- 1 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 2 褐色土 やや大きめのロームブロックを多く含む。
- 3 褐色土 1層に近似するが、ロームブロックが小さい。
- 4 褐色土 ローム粒子を含み、きめ細かい。

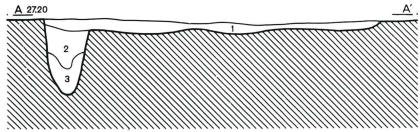


#### 第176号土壤土層

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒子を多く、黒褐色土をわずかに含む。

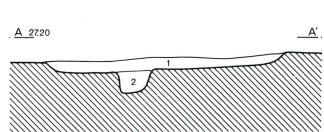
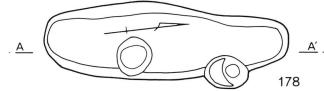
0 2 m

第217図 第165～176号土壤



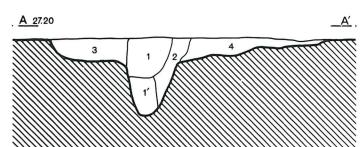
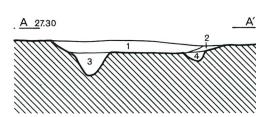
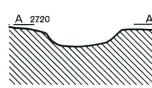
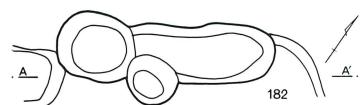
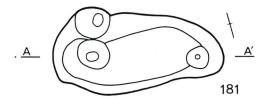
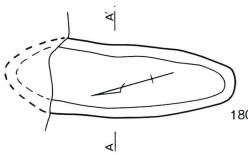
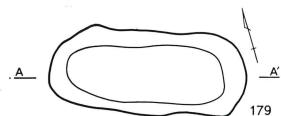
第177号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 明褐色土 ロームブロックを含む。



第178号土壤土層

- 1 暗褐色土 小礫を多量、焼土、ローム粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子をわずかに含む。

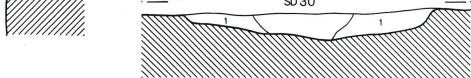
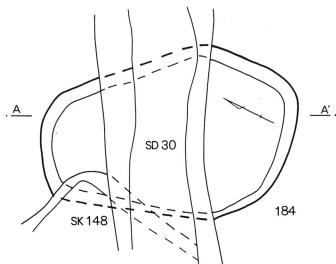
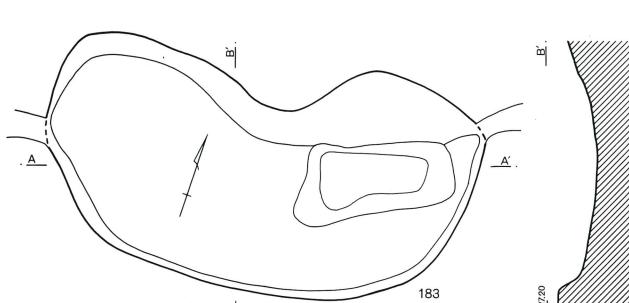


第182号土壤土層

- 1 褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 1' 褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。
- 3 褐色土 ロームブロックとの混土層。
- 4 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む。

第181号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む。
- 2 褐色土
- 3 黑褐色土 焼土、ローム粒子を少量含む。
- 4 黑褐色土

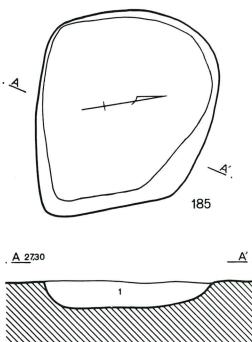


第184号土壤土層

- 1 黑褐色土 ローム粒子、炭化物を少量含む。

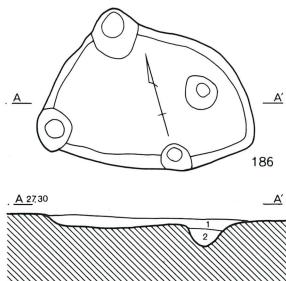
0 2m

第218図 第177～184号土壤



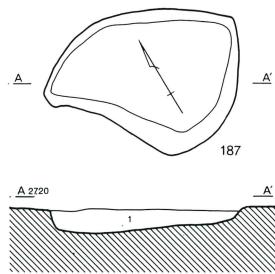
第185号土壌土層

1 黒褐色土 ロームブロック、焼土、炭化物を少量含む。



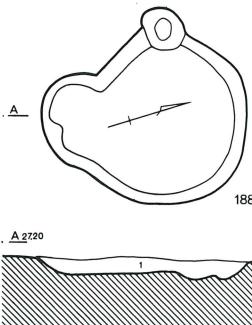
第186号土壌土層

1 黒色土 ローム粒子を霜降り状に含む。  
2 褐色土 ロームブロックを多く含む。



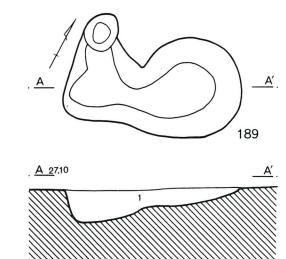
第187号土壌土層

1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む。



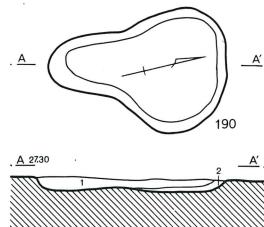
第188号土壌土層

1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。



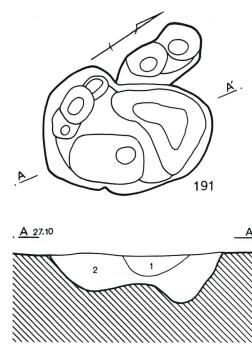
第189号土壌土層

1 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む。



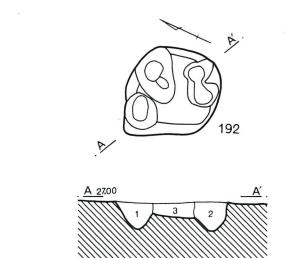
第190号土壌土層

1 黒色土 ローム粒子を霜降り状に含む。



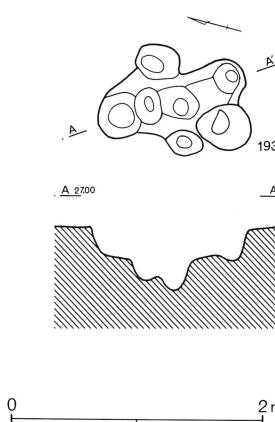
第191号土壌土層

1 黒褐色土 焼土、炭化物を多く含む。  
2 黒褐色土 ロームブロックを含む。



第192号土壌土層

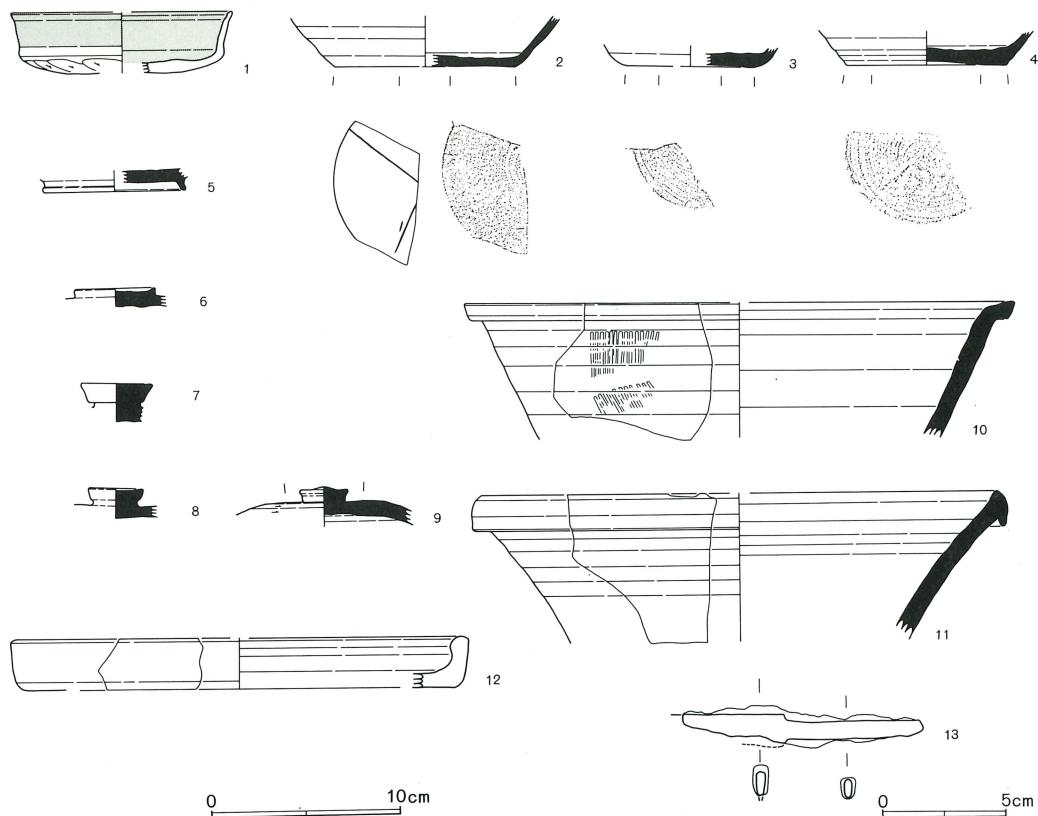
1 黒褐色土 ロームブロックを含む。  
2 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。  
3 褐色土 黒色土、ロームブロックを少量含む。



第219図 第185～193号土壌

#### 第10・65・94・106・109・111・126・152・174・175・186・190号土壌出土遺物（第220図）

1 の壺は口縁がやや外反し、内面に沈線を持つ、赤彩された土師器壺である。2 は器壁の薄いシャープな作りの須恵器壺で、底部は回転糸切り後、左回りに回転鎌削りされる。体部は一度内湾してから外に張る。3 はややぼてつとした作りの須恵器壺である。5 は高台壺で底部外面と高台部に自然釉が付着する。



第220図 第10・65・94・106・109・111・126・152・174・175・186・190号土壤出土遺物

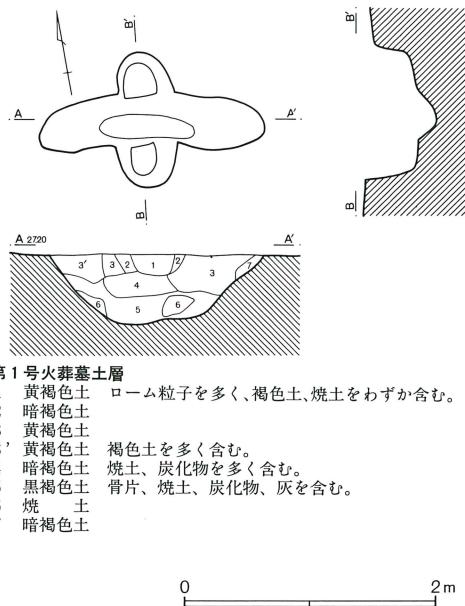
第10・65・94・106・109・111・126・152・174・175・186・190号土壤出土遺物観察表（第220図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(11.6)	(3.2)		B C G	B	橙	10%	SK65・覆土一括、赤彩
2	壺			(9.6)	B C G	A	暗青灰	10%	SK190・覆土一括
3	壺			(6.8)	B C G	A	暗青灰	5%	SK106・覆土一括
4	椀			(8.5)	A B F G	B	暗青灰	10%	SK175・覆土一括
5	高台壺				B C G	A	暗青灰	5%	SK126・覆土一括
6	蓋				B C G	B	灰白	5%	SK10・覆土一括
7	蓋				B C G	A	暗青灰	5%	SK10・覆土一括
8	蓋				B C G	A	灰白	5%	SK152・覆土一括
9	蓋				B C G	B	灰白	5%	SK94・覆土一括
10	鉢	(29.0)			B C F G	A	暗青灰	10%	SK109・No.5、外面はタタキ
11	壺	(27.2)			B C G	A	暗青灰	5%	SK174・覆土一括
12	焰焰	(23.5)	2.2	22.9	A B G	B	黒	5%	SK111・覆土一括
13	刀子				残存長9.5cm 厚さ0.4~0.3cm				SK186・覆土一括

## (6) 火葬墓

### 第1号火葬墓 (第221・222図)

遺跡中央部やや南より、I-22グリッドに位置する。形態は十字形で、規模は約180cm×105cm、深さは55cmほどである。短軸方向が浅くテラス状になり、長軸方向が深く掘り下げられていた。骨片、焼土、炭化物、灰が覆土下層の5層から検出された。骨片の取上げ量は約920gであった。骨片の遺存状態が比較的良好であったため、骨片鑑定を依頼したところ、「火葬骨は壮年期男性1個体分で、外傷や病変は見られない」という成果を得た。土器片の出土はなかったが、細い棒状の鉄製品が検出された。鉄製品は先端部がやや厚みを持ち、基部は1.4cmほど中空になっている。



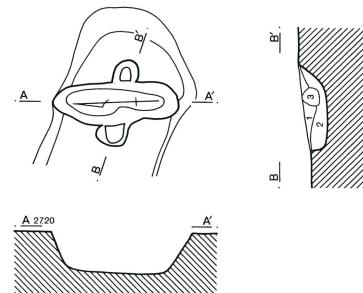
第222図 第1号火葬墓出土遺物

### 第1号火葬墓出土遺物観察表 (第222図)

番号	器種	出土位置・その他
1	?	残存長9.8cm 径0.3~0.7cm 覆土一括、鉄製品

### 第2号火葬墓 (第223図)

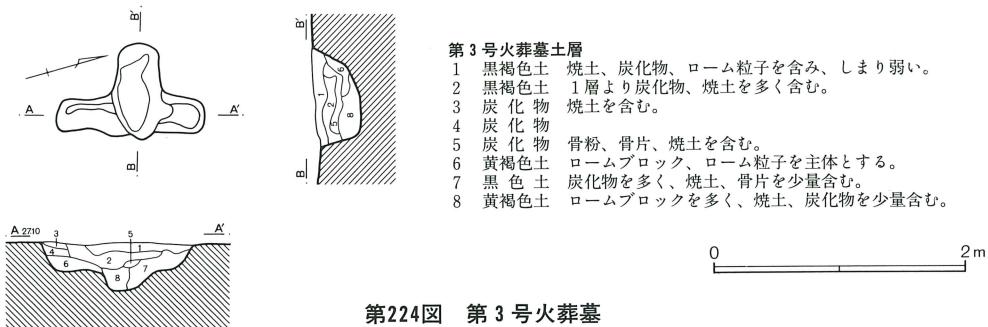
遺跡中央部、H-23グリッドに位置し、第175号土壙を切って構築されていた。形態は十字形で、規模は約100cm×70cm、深さは25cmほどである。取上げた骨片の量は約250gでやや少ないが、骨片の遺存状態は比較的良好であった。また炭化物を取上げることができ、110gほど検出された。炭化物は良好な遺存状態であったので炭化材の同定を依頼したところ、クリであるという成果を得た。土器などの出土遺物はなかった。



第223図 第2号火葬墓

### 第3号火葬墓 (第224図)

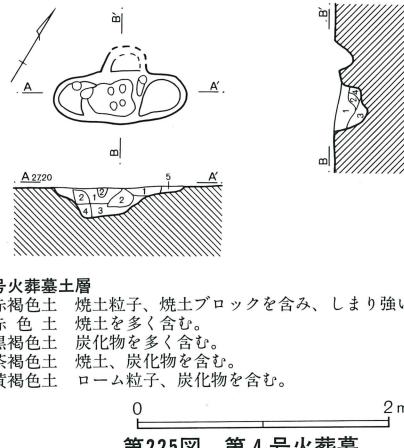
遺跡西北部、F-25グリッドに位置する。形態はT字形で、規模は約118cm×75cm、深さは36cmほどである。取上げた骨片の量は約230gで、やや少なく、骨片の遺存状態もやや不良であった。土器など出土遺物はなかった。



第224図 第3号火葬墓

#### 第4号火葬墓（第225図）

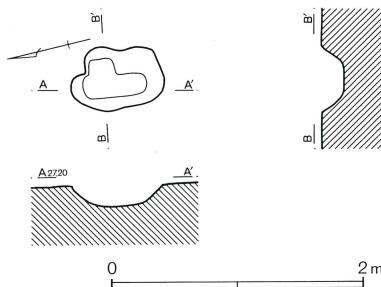
遺跡中央部、H-22グリッドに位置する。形態はT字形で、先端部をピットに切られていた。規模は約110cm×62cm、深さは21cmほどである。取上げられた骨片の量は100gで、やや少なかつた。土器など出土遺物はなかった。



第225図 第4号火葬墓

#### 第5号火葬墓（第226図）

遺跡西部、G-19グリッドに位置する。第31号溝跡に西側が隣接する。整理時点で形態から火葬墓と認定した遺構である。形はやや歪むが、T字形に属すると思われ、規模は約75cm×50cm、深さは16cmほどである。取上げた骨片、遺物はなかった。



第226図 第5号火葬墓

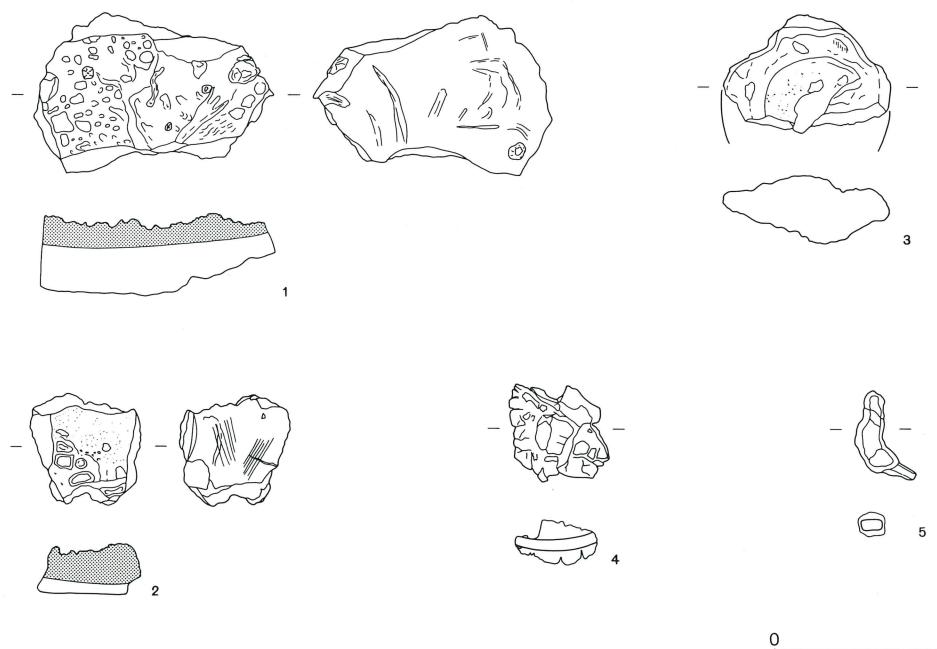
#### (7) 鋳造関連遺物（第227～229図）

足洗遺跡は、中世の大規模な鋳造遺構を検出した金井遺跡B区に隣接する位置にある。そのため、本遺跡で検出した遺構覆土中からわずかではあるが、鋳造関連の遺物を確認した。

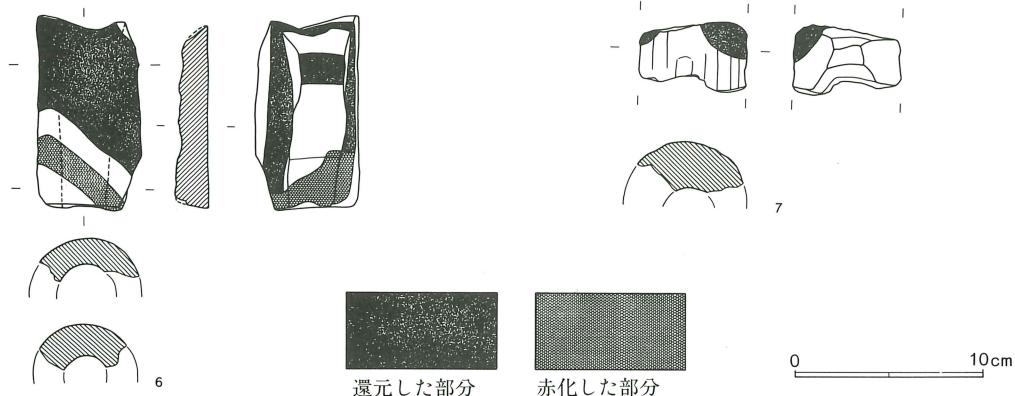
遺物は、全て分類し、計量した。分類基準については金井遺跡B区の方法による。本遺跡出土の鋳造関連遺物は総重量で1140gと極めて少なく、種類としては、鉄塊・炉壁・鉄滓・鍛冶滓（椀形滓）である。

第227図の1・2は溶解炉の炉壁片である。1は長さ8.0cm、幅12.3cm、厚さ3.9cmで、このうち湯津（溶解物）の厚さが1.5cmほどで、還元された粘土の厚さが1.4cmである。炉壁は白色針状物質を含む粘土を素材とし、砂粒・スサ・小石等を混入させている。しかも、かなりの高温になるため還元され青灰色をしている。内面の湯津は光沢のある黒色で、部分的に白灰色をしている。重さは277g。SE13出土。2も同様の炉壁片であるが、裏面は平滑で、砥石代りに使用されたものと考えられる。長さ5.8cm、幅5.8cm、厚さ2.6cm、重さ60gである。G-23グリッドP85出土。3は鍛冶津で、そのなかでも、楕円形津である。大きさは平面形でやや不整ながらも、直径約9.0cmで、断面形は半球状をしており、丁度楕の形に似ていることから楕円形津と呼ばれる。重さは216g。色調は黒褐色である。SD14出土。4・5は鉄塊と分類したものである。鉄塊は金属が錆びたもので、なかには金属反応のあるものも遺存する。4は錆鉄製品の破片と見られる。厚さは0.6cmほどのやや内湾した破片で、鉄鍋のような容器破片と推定される。まわりは錆割れが激しい。重さ53g。SE1出土。5は金属反応があり、中核部分にはメタルが残されている。鉄製品である可能性が考えられる。長さ5.2cm、厚さ1.2cm、断面形は長方形のようである。重さ8g。SE1、No.9出土。 (赤熊浩一)

第228図6・7は羽口である。径が小さいこと、鉄津などの付着物が無いことから鍛冶用の羽口であると思われる。6は長さ10cm、推定外径5.9cm、外面は黒色の還元した部分と被熱して赤化した部分に分かれる。内面も同様である。推定内径は還元した部分で3.1cm、赤化した部分で2.3cmである。断面にも還元した部分がサンドイッチ状に観察される。外面の還元した部分が炉壁方向に向けられていたと思われる。SD29出土。7は羽口の小片で、外面に整形時の指ナデによる痕跡が帯状に見られ、還元した部分が観察される。推定外径は6cm、推定内径は2.9cmである。SJ20出土。



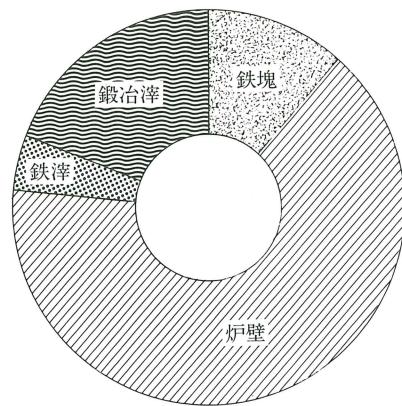
第227図 錆造関連遺物 (1)



第228図 鋳造関連遺物 (2)

鋳造関連遺物計量表

遺構番号	鉄塊	炉壁	鉄滓	鍛冶滓
SJ12	6		19	
SJ18	49			
SJ29・30・31		6	1	
SK158			14	
SK41		64		
SE1	61			
SE13		331		
SD14		17	15	216
SD25		3		
H-22 P29		181		
H-23 P38	16			
G-23 P85		60		
I-22 P2	1			
J-21 一括		80		
合計(g)	133	742	49	216

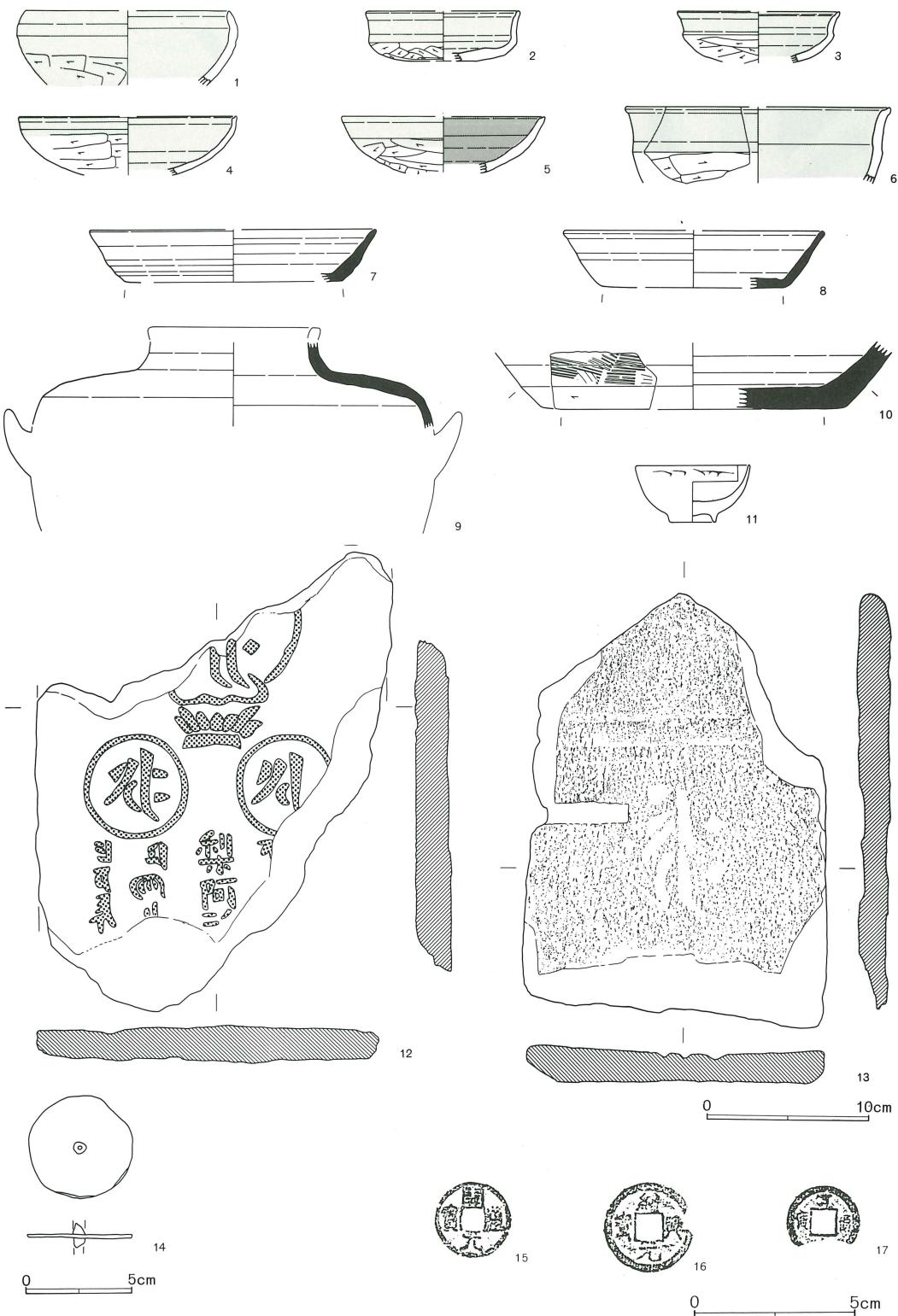


第229図 鋳造関連遺物計量グラフ

### (8) その他の遺物 (第230図)

グリッドのピット、グリッドの確認面、足洗遺跡表採として検出した遺物をここで報告する。

1は外面に凹線が巡り、口縁部が内湾する赤彩された土師器壺で、古墳時代後期前半のものであろう。2は底部が浅く、口縁部が大きく、直立気味に外反する。3は丸底で底部と口縁部の境に陵を持ち、口縁部の外反がきつい。2、3は稻荷前IV期であろう。4は器壁やや薄く、口縁部の小さい土器である。5は内面に黒色処理されており、やや厚手で皿状の土器である。4、5は稻荷前V期であろう。6は口縁端部が外に突出する鉢であり、稻荷前VI期であろう。7は焼きのよい須恵器壺で、体部下半は厚く、口縁部は器壁を薄くし、外に開く。8は焼きが悪く、灰白色で、内面底部と体部の境に凹線状の窪みを持つ。7、8は稻荷前VI期であろう。9は外面肩部下に取っ手の痕跡を持つ短頸壺である。11は外面に染付けを施した小碗である。12は遺存状態が悪く、金泥がわず



第230図 ピット・グリッド・表採出土の遺物

かに残る金泥付板碑である。残存長は28.3cm、幅は21.7cm、厚さ2.1cmで、石質は緑泥片岩である。彫込まれている種字は主尊の阿弥陀如来、脇侍の勢至菩薩、觀音菩薩からなる阿弥陀三尊である。その下に「梨阿？」という願主の名前を挟んで光明真言が見られる。13は異体の阿弥陀如来の種字が彫込まれた板碑である。残存長は26.5cm、幅18.5cm、厚さ2cmで、石質は緑泥片岩である。14は表採として検出した鉄製の紡錘車である。軸の部分を殆ど欠損している。口径4.8cm、厚さ0.2cm、軸の径約0.5cmである。15は開通元宝で唐銭、初鑄年は621年である。第8号溝跡覆土出土。16は紹興元宝で南宋銭、初鑄年は1131年である。第18号住居跡覆土出土。17は寛永通宝で初鑄年は1636年である。表採出土。

ピット・グリッド・表採出土遺物観察表（第230図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(12.5)			B C F G	A	赤褐	10%	G-26グリッド出土、赤彩
2	壺	(9.4)	(3.1)		B C E F G	A	赤褐	10%	F-25グリッド出土、赤彩
3	壺	(10.0)			B C G	A	橙	10%	H-22・P14出土、赤彩
4	壺	(13.4)			B C G	A	橙	5%	H-25・P4出土、赤彩
5	壺	(12.5)			B F G	A	橙	10%	D-26・P5出土、外面は赤彩、内面は黒色
6	鉢	(16.3)			B F G	A	橙	5%	M-25・P4出土、赤彩
7	壺	(17.6)	(3.2)	(13.4)	B C G	A	暗青灰	10%	F-23グリッド出土
8	壺	(15.9)	(3.5)	(11.0)	B C G	C	灰白	20%	F-23グリッド出土
9	短頸壺				B C G	A	灰白	10%	G-21・P7出土
10	鉢				(18.8)	A B C G	A	暗青灰	H-24・P4出土
11	小椀	7	3.5	2.8		A	明緑灰	80%	表採
12	板碑	残存長28.3cm 幅21.7cm 厚さ2.1cm						表採、金泥付板碑（スクリーントーン部が金泥）	
13	板碑	残存長26.5cm 幅18.5cm 厚さ2cm						表採	
14	紡錘車	径4.8cm 厚さ0.2cm 軸の径約0.5cm 重さ25.6g						表採、鉄製品	

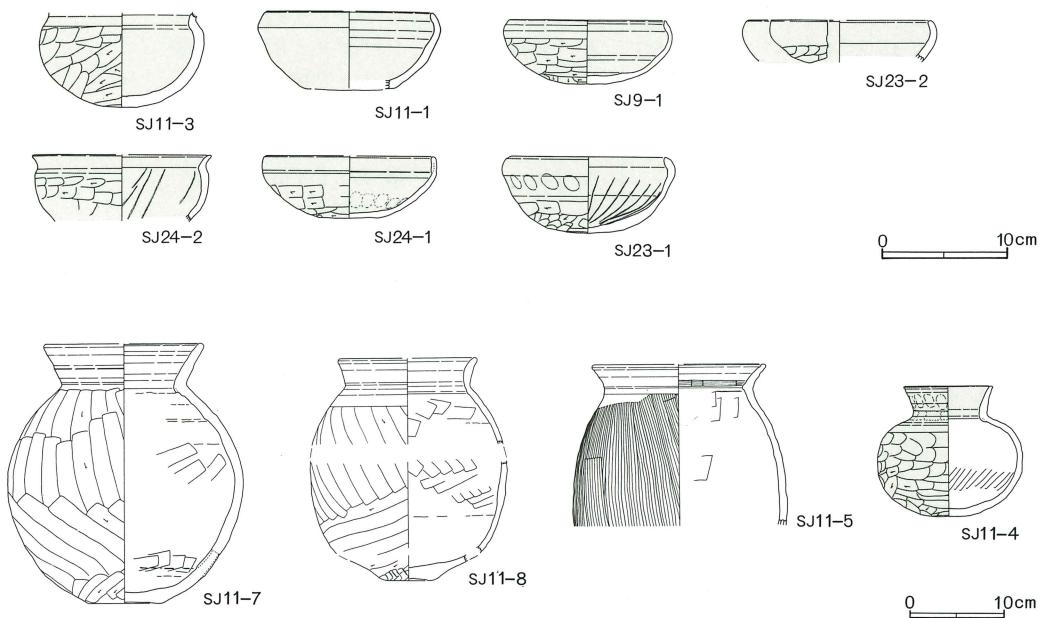


発掘調査状況

## V 調査のまとめ

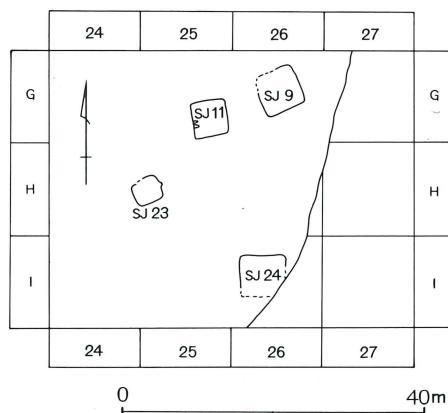
### 1 古墳時代後期前半の土器と遺構

本時期に属する遺物は第231図に示すとおりである。SJ11で検出した土器群が主な資料で、一括性の高いものである。SJ11-3の壺は体部の深いもので、口縁が短く立上がる。SJ11-1、SJ9-1、SJ23-1・2の壺は口縁部が内湾気味に立上がるものである。SJ11-7・8の甕は頸部の括れが強く、口縁部が外反するもので、胴部が球形に張る。また、壺、甕類はSJ11出土のもののみで、他の遺構から良好な資料がない。



第231図 古墳時代後期前半の土器

本時期に属する遺構は、4軒の住居跡で遺跡東部にまとまるため、その部分をだけを第232図に示した。カマドを持つのがSJ11、SJ23で、SJ23は東カマド、SJ11は西カマドである。SJ9とSJ24はカマドを持つない。カマドのない住居跡が大きく、カマドを持つ住居跡が小さい傾向がある。主軸方向はSJ9とSJ23が一致する。



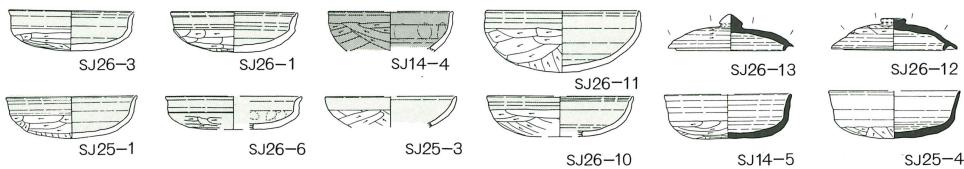
第232図 古墳時代後期前半の遺構 (縮尺1/1,000)

## 2 古墳時代後半から奈良時代にかけての土器と遺構

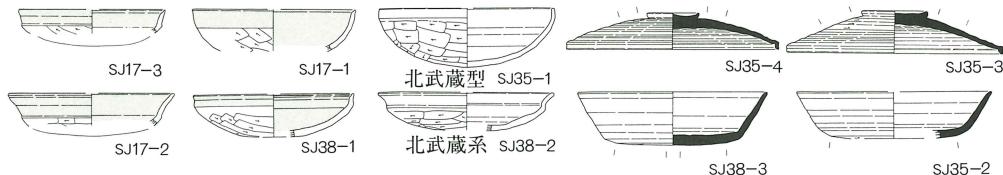
本時期に属する遺物は第233・234図に示すとおりである。

本時期の初出は稻荷前IV期（富田 1992）の時期で、7世紀第3～4四半期である。SJ26の須恵

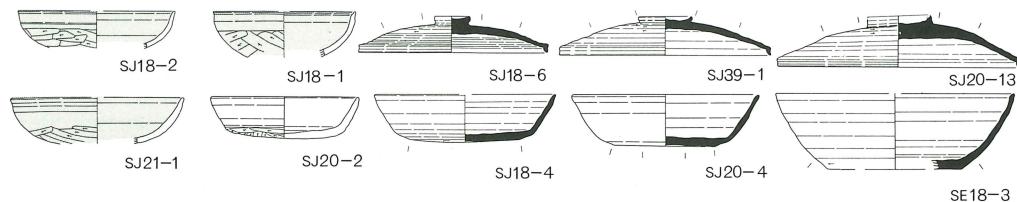
### IV期の土器



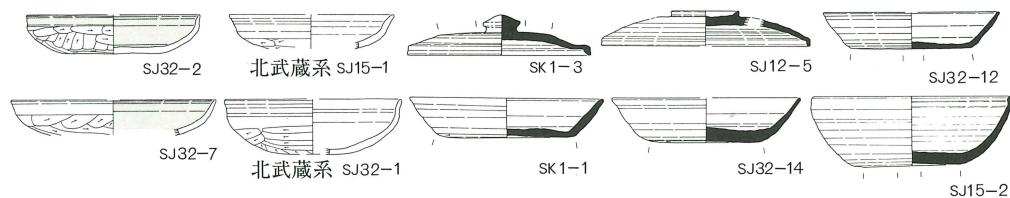
### V期の土器



### VI期の土器



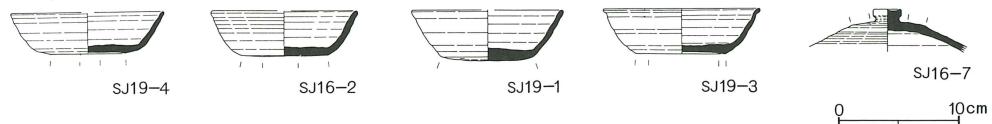
### VII期の土器



### VIII期の土器



### IX期の土器

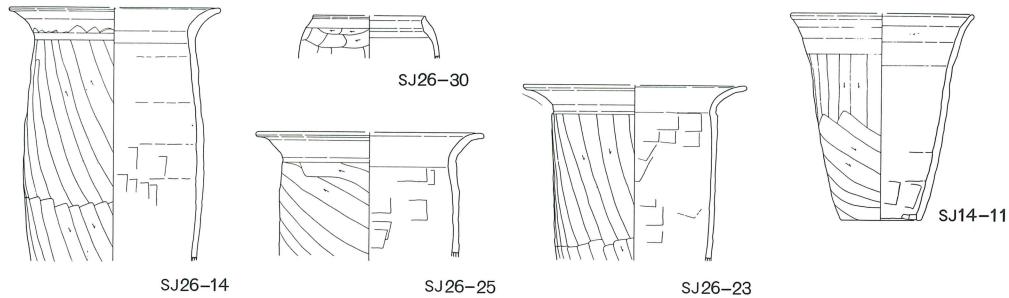


0 10cm

第233図 稲荷前IV期～IX期の土器 (1)

器蓋とSJ14、SJ25の須恵器坏がこの時期の特徴的な土器である。SJ26の蓋はやや器高が低いが内面の返りを明瞭に持つ。SJ14、SJ25の須恵器坏は底部手持ち笠削りであるが、体部から口縁部にかけてやや丁寧に撫でられている。土師器坏は比企型坏と呼称されるもので、SJ26-3、SJ25-1は体部と口縁部の境に陵を持たないタイプ。SJ26-1、6は陵を持つタイプである。甕は器壁が厚く、口縁部が外側に強く開き、古墳時代後期の伝統を持つ。

#### IV期の土器



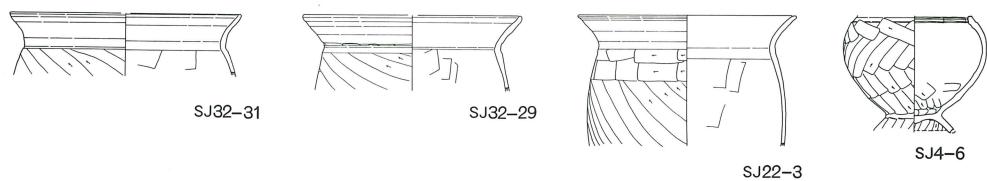
#### V期の土器



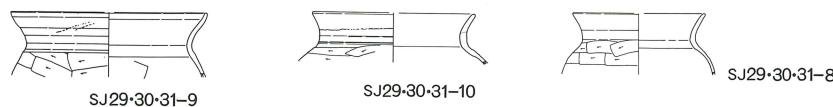
#### VI期の土器



#### VII期の土器



#### VIII期の土器



#### IX期の土器



0 10cm

第234図 稲荷前IV期～IX期の土器 (2)

稻荷前V期は7世紀末葉～8世紀第1四半期前半の頃で、須恵器坏は大型化し、底部がやや丸味



第235図 稲荷前IV期～IX期の遺構 (縮尺1/1,000)

を持った平底である。蓋も同様に大形化する。土師器坏 SJ17-3、2 は体部と口縁部の境に陵を持つタイプで、SJ38-1は口径のやや大きい皿状タイプである。SJ35-1は北武藏型坏で、SJ38-2は北武藏系の皿である。

稻荷前VI期は8世紀第1四半期後半の頃で、V期のタイプの大型須恵器坏が残るが、平底化が進行する段階である。土師器坏は皿状タイプのものが主流となり、SJ18-1は口縁部内面に沈線を持つが、SJ18-2、SJ21-1は沈線を持たない。

稻荷前VII期は8世紀第2四半期の頃で、SJ32、SK1に代表される。須恵器坏は口径はほぼ同じだが器高をやや減じ、シャープな平底を呈する。土師器坏は口径を大きくし、器高を減じ、皿状化を強めるようである。SJ15-1は北武藏系の皿で、SJ32-1は北武藏系の坏である。この時期で土師器坏は須恵器坏に替る。SJ22-3の甕は口縁部「く」の字で、器壁の薄いタイプである。

稻荷前VIII期は8世紀第2四半期後半～第3四半期前半の頃で、須恵器坏は口径を減じ始め、やや縮小化する傾向を見せる。SJ29・30・31-10の甕は口縁部「く」の字が崩れ始め、「コ」の字化を指向し始める。

稻荷前IX期は8世紀第3四半期後半～第4四半期前半の頃で、須恵器坏は底径を減じ始め、SJ19-1のような特徴的なものを出現させる。SJ27・28-21の甕は口縁部の「コ」の字化が見られる。

本時期の遺構の特徴は掘立柱建物跡群が堅穴住居跡群と共に存在し、総体的に掘立柱建物跡群は遺跡西側に、堅穴住居跡群は遺跡東側に立地するという傾向がある。掘立柱建物跡は遺物量が少なく、時期を決定するのが難しいが、主軸をほぼ同じくするものを同時期とし、わずかな遺物から時期を与え、遺物が得られない場合は付近で主軸を同じくする堅穴住居跡の時期を与えた。

本時期の遺構は第235図に示すとおりである。

稻荷前IV期に属する遺構は4軒の住居跡と1軒の掘立柱建物跡であり、遺跡東側にほぼ一列に並ぶ。V期になると遺跡内部に展開し、中央部と西部に規模の小さい住居跡と掘立柱建物跡が散在する。VI期には中央部の住居跡は大型化し、西部には小型の住居跡と3間×3間の比較的大型の掘立柱建物跡と2間×2間で倉庫と思われる総柱のSB24が出現する。SB24はSJ33・SJ34と主軸を同じくする。VII期には中央部、北東部、南西部、西北部に堅穴住居跡と掘立柱建物跡がセットで分立し、本遺跡の中で活況を呈した時期である。SB25～27はSJ32と主軸を同じくする。VIII期と本時期の最終であるIX期には北東部から南西部にかけて集落の規模を小さくする。また本時期に属すると思われるが時期細分のできない遺構は古代の遺構として示した。

### 3 中世の遺構

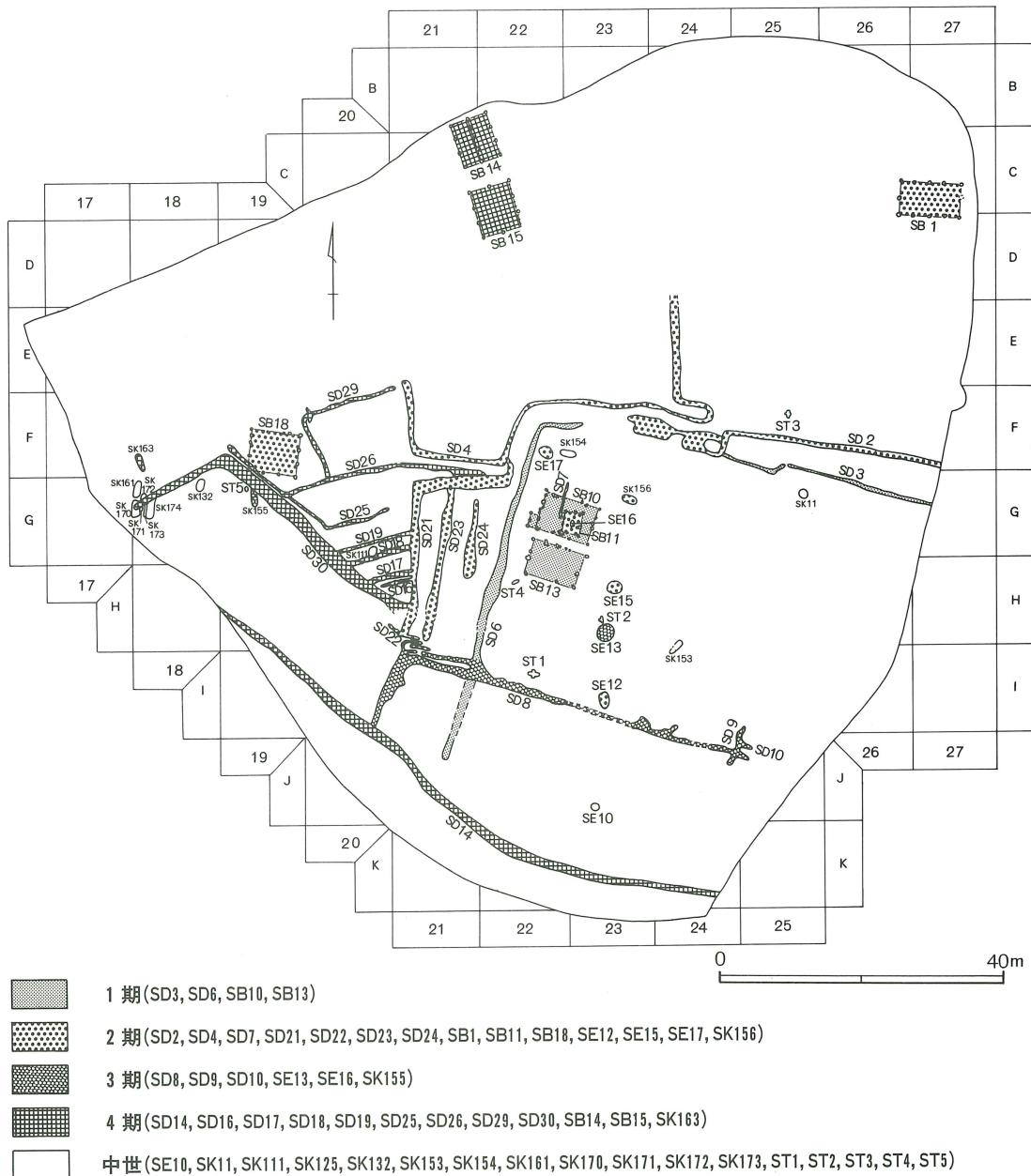
本遺跡の中で中世の遺構と思われるものは井戸跡、方形に区画する溝跡、それに主軸方向を同じくする掘立柱建物跡、また墓壙と思われる長方形タイプのものを含む土壙群、火葬墓であり、時代は出土遺物から15～16世紀の範囲にまとまる。

区画溝の変遷は、以下のような4時期が想定される。

1期は青白磁の皿と在地産の内耳鍋、鉢を検出したSD6、常滑の甕を検出したSD3によって区画される範囲で、15世紀代の頃である。区画溝内にSB10、SB13の建物遺構を持つ。2期は1期の区

画溝の軸をややすらす SD21、SD4、SD2によって区画される範囲である。在地産の内耳鍋、鉢を主体的に検出した。区画内の SB11、区画外の SB1・18が区画溝と主軸と同じくすることから本期の遺構と想定される。3期は16世紀代の水滴を検出したSD8によって区画される。建物となる遺構は検出できなかった。4期はSD14とSD30に付随する溝跡の時期である。区画溝としてではなく、土地境を表す溝として機能した時期と思われる。

また遺物の少ない土壙や墓壙と思われる長方形タイプの土壙、火葬墓は時期がはっきりしないが、



第236図 中世の遺構 (縮尺1/1,000)

区画溝で構成される集落に付随する施設と思われ、中世全体の時期として示した。表採遺物として金泥付を含む板碑が検出されたことは墓跡との関連を窺わせる。

## 参考文献

- 井上 肇 1978 『舞台』埼玉県遺跡発掘調査報告書第17集 埼玉県教育委員会
- 井上 肇 1979 「7世紀の坏型土器について」埼玉県立博物館 紀要-6
- 今井 宏他 1980 『児沢・立野・大塚原』埼玉県遺跡発掘調査報告書第28集 埼玉県教育委員会
- 小川 良祐 1989 「お寺山遺跡」『佛教藝術 一八二号』
- 加藤 恭朗、北堀 彰男、柳楽 理他 1993 『坂戸市史 古代史料編』坂戸市教育委員会
- 埼玉県 1982 『新編埼玉県史 史料編2』・1984 『新編埼玉県史 史料編3』
- 酒井 清治 1987 「武藏国における須恵器年代の再検討」埼玉県立歴史資料館研究紀要第9号
- 篠崎 潔、平田重之 1989 『皂樹原・檜下遺跡I』皂樹原・檜下遺跡調査会
- 谷井 彪他 1974 『田木山・弁天山・舞台・宿ヶ谷戸・附川遺跡』埼玉県遺跡発掘調査報告書第4集 埼玉県教育委員会
- 富田 和夫 1992 『稻荷前遺跡 (A区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第120集
- 中村 倉司 1984 「器種組成の変遷と時期区分—古代北武藏の例から—」土曜考古第9号
- 宮瀧(水口)由紀子 1989 「いわゆる“比企型坏”的再検討」『東京考古』第7号
- 村田 健二 1992 『桑原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第121集
- 渡辺 一他 1988 『鳩山窯跡群I』・1990 『鳩山窯跡群II』鳩山窯跡群遺跡調査会 鳩山町教育委員会
- 渡辺 一 1990 「南北企窯跡群の須恵器の年代」『埼玉考古』第27号 埼玉考古学会

# 付編

## 1 土器胎土分析

### X線回析試験及び電子顕微鏡観察

(株)第四紀 地質研究所

井上 巍

#### 1 実験条件

##### 1-1 試料

分析に供した試料は第1図分析土器一覧に示すとおりである。X線回析試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥した後、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。電子顕微鏡観察に供する遺物試料は断面を観察できるように整形し、 $\phi 10\text{mm}$ の試料台にシルバーペーストで固定し、イオンスパッタリング装置で定着した。

##### 1-2 X線回析試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回析試験によった。測定には日本電子製 JDX-8020 X線回析装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target : Cu, Filter:Ni, Voltage : 40Kv, Current : 30mA, ステップ角度 : 0.02°

計数時間 : 0.5ESC。

##### 1-3 電子顕微鏡観察

土器胎土の組織、粘土鉱物及びガラス生成の度合についての観察は電子顕微鏡によって行った。観察には日本電子製 T-20を用い、倍率は35、350、750、1500、5000の5段階で行い、35~350倍は胎土の組織、750~5000倍は粘土鉱物及びガラスの生成状態を観察した。

足洗-1 (SJ11-1) 6世紀第1四半期	足洗-2 (SJ11-2) 6世紀第1四半期	足洗-3 (SJ23-1) 6世紀第1四半期	足洗-4 (SJ23-2) 6世紀第1四半期		
足洗-5 (SJ8-2) 7世紀後半	足洗-6 (SJ14-2) 7世紀後半	足洗-7 (SJ26-1) 7世紀後半	足洗-8 (SJ25-1) 7世紀後半	足洗-9 (SJ24-5) 7世紀後半	
足洗-10 (SJ18-2) 8世紀前半	足洗-11 (SJ34-1) 8世紀前半	足洗-12 (SJ32-2) 8世紀前半	足洗-13 (SJ32-1) 8世紀前半(北武藏系)	足洗-14 (SJ38-1) 8世紀前半	足洗-15 (SJ35-1) 8世紀前半(北武藏型)

第1図 分析土器一覧

## 2 実験結果の取扱い

実験結果は第1表分析土器胎土性状表に示すとおりである。第1表右側にはX線回析試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。X線回析試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現れる各鉱物に特有のピークの高さ(強度)をm/m単位で測定したものである。電子顕微鏡によって得られたガラス量とX線回析試験で得られたムライト(Mullite)、クリストバーライト(Cristobalite)等の組成上の組合せとによって焼成ランクを決定した。

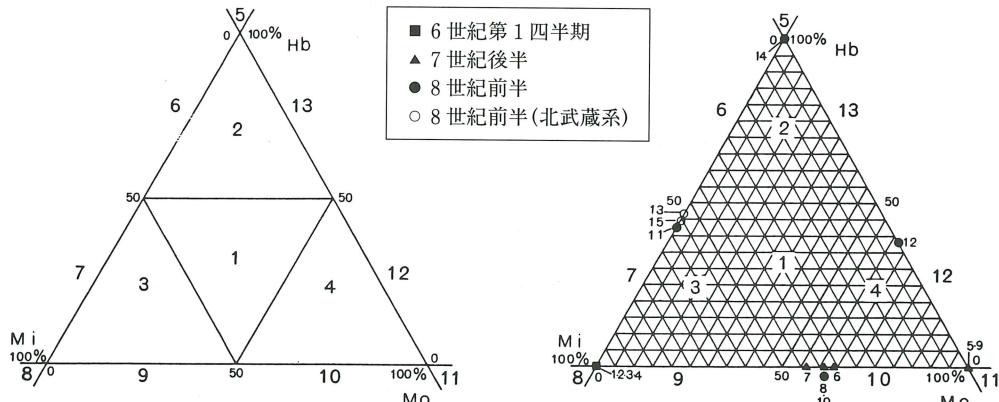
### 2-1 組成分類

#### 1) Mo-Mi-Hb (モンモリロナイト-雲母類-角閃石) 三角ダイアグラム

第2図左側に示すように三角ダイアグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。三角ダイアグラムはモンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)のX線回析試験におけるチャートのピーク高を、パーセントで表示する。モンモリロナイトは $Mo/(Mo+Mi+Hb) \times 100$ でパーセントとして求め、同様にMi, Hbも計算し、三角ダイアグラムに記載した。三角ダイアグラム内の1~4はMo, Mi, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。位置分類についての基本原則は第2図に示すとおりである。

第1表 分析土器胎土性状表

試験 No	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物													
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ch, Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Hy
足洗-1	L	III	8	20		153				3687	499	166						
足洗-2	L	III	8	20		147				2648	294	91						
足洗-3	J	III	8	8		128		191		3199	464	111						
足洗-4	K	III	8	20		119				3460	296	88						
足洗-5	N	III	11	20	282			274		2026	779							
足洗-6	L	III	10	17	242	136				1843	261	84						
足洗-7	L	III	10	17	217	168				2089	356	85						
足洗-8	L	III	10	17	289	176				2250	317	99						
足洗-9	N	III	11	20	243					2015	281							
足洗-10	L	III	10	17	229	141				2121	399							
足洗-11	H	III	7	9		113	88	123		3073	626	159						
足洗-12	P	III	12	14	209		128			1622	399							
足洗-13	I	III	7	20		136	117			1428	490	149						
足洗-14	E	III	5	20			130			2479	344	99		176				
足洗-15	I	III	7	20		130	106			1325	479							



第2図 組成位置分類とその結果(Mo(モンモリロナイト)-Mi(雲母類)-Hb(角閃石)三角ダイアグラム)

### 3 分析結果

#### 3-1 タイプ分類

分析結果に基づいて第2図三角ダイアグラムを作成し、位置分類を行った。位置分類に基づいて、胎土のタイプ分類を行った。以上の結果から、足洗遺跡の土器の胎土は、E、H、J、K、Pの各タイプは各1個、I、Nは各2個、Lは6個と最も多い。15個の土器に対して8タイプという、比較的多くのタイプが存在する。Lタイプは個体数が多いことから推察して在地、あるいは在地近傍の可能性が高い。多くのタイプに胎土が分れるということは幾つかの異なるタイプの土器が含まれているものと推察される。

#### 3-2 石英 (Qt)-斜長石 (Pl) の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土に、ある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い替えれば、各地の砂は各々固有の石英と斜長石比を有していると言える。この固有の比率を有する砂をどの程度粘土中に混入するかは各々の集団の有する固有の技術の一端と考えられる。

土器はI～Vの5グループに分類された。

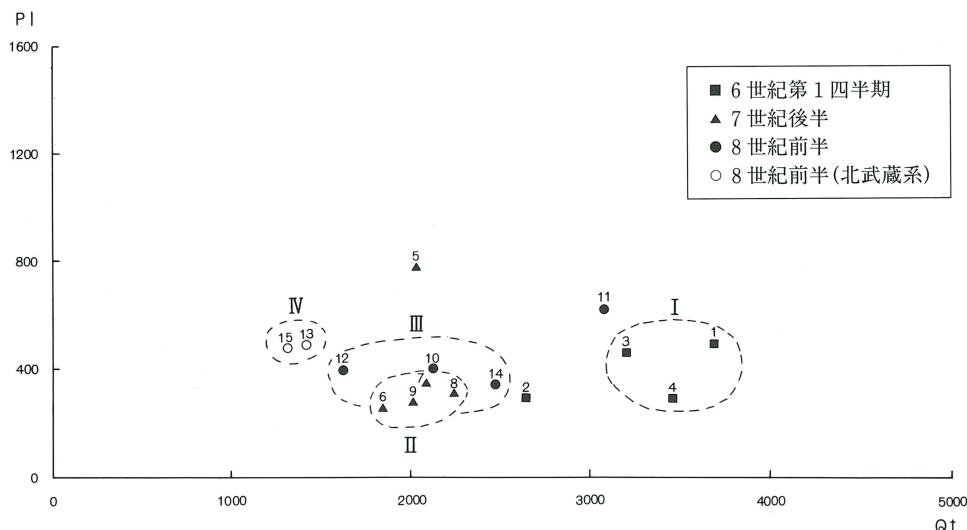
Iグループ：6世紀第1四半期の坏が集中する。

IIグループ：7世紀後半の坏が集中する。

IIIグループ：8世紀前半の坏が集中する。

IVグループ：8世紀前半の北武藏系の坏が集中する。

以上の結果から明らかのように、6世紀第1四半期の坏は斜長石の強度が高く、7世紀後半の坏は強いまとまりを持ち、8世紀の坏はやや広い分布を示す。足洗遺跡の土器坏は時代毎に異なるグループを形成すると言えるだろう。



第3図 石英 (Qt)-斜長石 (Pl) 相関図

## 2 炭化材同定

第2号火葬墓から検出された燃料材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

### 1 試料

試料は、第2号火葬墓（中世）から検出された炭化材である。炭化材は、一括採取されたものであったため、試料間の接合の有無等を確認した上で、比較的大型の炭化材10点を選択した。

### 2 方法

試料を乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作製し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

### 3 結果

試料は、10点全てがクリに同定された。クリの主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を以下に記す。なお、和名・学名等は、「原色日本植物図鑑 木本編〈II〉」（北村・村田、1979）に従い、一般的性質などについては「木の辞典 第4巻」（平井、1980）も参考にした。

#### ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科

環孔材で孔圈部は1～4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1～15細胞高。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐久性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、橋木や海苔粗朶などの用途が知られている。

### 4 考察

中世の第2号火葬墓の燃料材は、全てクリであることが明かとなった。関東地方では、同時期の火葬墓から出土した炭化材の情報が少ない。しかし、神奈川県横浜市上の山遺跡の中世とされる墓壙から出土した炭化材の同定では、興味ある結果が得られている（パリノ・サーヴェイ株式会社、1992）。上の山遺跡の墓壙から検出された炭化物は、材、種実、葉であった。材ではコナラ属、コナラ亜属コナラ節の一種を中心として5種類が同定された。また、種実ではイネ、ミツバウツギ等3種類、葉ではテリハノイバラやシダ類等4種類が同定された。上の山遺跡の結果では、材の樹種構成はコナラ節を中心とするものの、その種類数は比較的多い。これらの結果から、中世火葬墓の燃料材は、特に木材を選択せず周辺で入手可能であったものを利用したことが示唆される。また、木材を燃料材として利用する場合、すぐには火がつかないことから火つけ材のような燃え易い燃料材の存在が考えられる。上の山遺跡で検出された葉や種実は、火つけ材の一部であった可能性が指摘

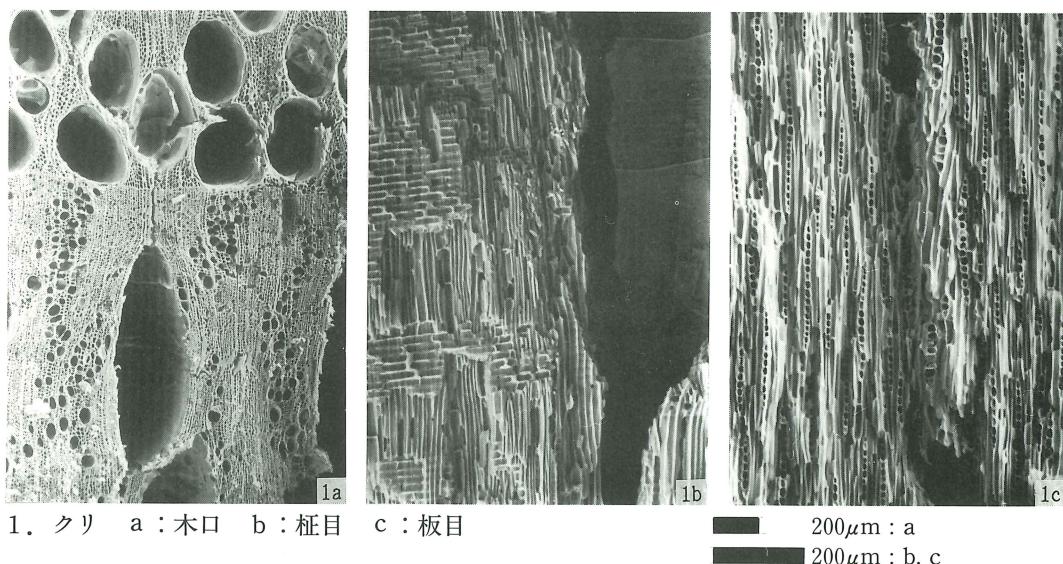
されている。

第2号火葬墓燃料材として使用されたと考えられるクリについても、周辺で得易い木材であったことが推定される。なお、上の山遺跡と同様に燃え易い火つけ材が利用されていた可能性も考えられる。葉等の植物遺体が残らなければ、その存在を知ることはできないが、使用された植物がイネ科に由来する場合には植物珪酸体分析によりその存在を確認できる可能性がある。今後同様の調査を行う際には、炭化材が検出される付近の覆土や、床面直上の土壤試料などを対象に、植物珪酸体分析や種実遺体の洗い出しと同定等も行う必要があろう。

#### 引用文献

- 平井信二 (1980) 木の辞典 第4巻. かなえ書房  
北村四郎・村田 源 (1979) 原色日本植物図鑑 木本編〈II〉, 545p., 保育社  
パリノ・サーヴェイ株式会社 (1992) 上の山遺跡植物遺体同定. 港北ニュータウン地域内埋蔵文化 財調査報告 XIII 「上の山遺跡」, p. 196-202, 横浜市埋蔵文化財センター

図版 第2号火葬墓から検出された炭化材の顕微鏡写真



### 3 骨片鑑定

#### 第1号火葬墓出土人骨について

聖マリアンナ医科大学

森本岩太郎

吉田 俊爾

#### 1 試料

鑑定した試料は、発見された火葬墓のなかで、人骨の量が多く、保存状態が比較的良好な第1号火葬墓出土人骨である。

#### 2 人骨所見

この火葬人骨は壮年期男性1個体分で、その総重量は約900gである。火葬人骨なので変形してひび割れを起こし、ほとんどが細片となっている。したがって所属部位が確実に同定できる骨片（図版）についてだけその所見を記載する。

頭蓋片としては後頭鱗、左側頭骨の錐体・下頸窩・関節結節、右側頭骨の錐体、主縫合縁をもつ頭蓋冠構成骨、前頭鱗、左眼窓上縁部、左下頸枝などの骨片が認められる。主縫合縁をもつ頭蓋冠構成骨の縫合部を見ると外板では骨結合化は認められないが、内板では部分的に骨結合化が認められる。

体幹骨は環椎（第1頸椎）の前結節・歯突起窓片がある。

上肢骨としては左右肩甲骨の関節窩・肩甲棘・肩峰、右橈骨の骨体・下端、右尺骨の骨体などの骨片が認められる。

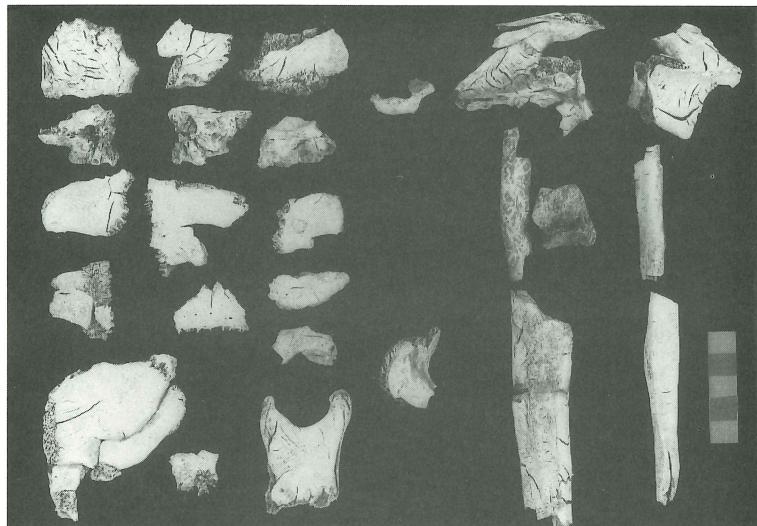
下肢骨は右寛骨の大坐骨切痕部、右大腿骨体上部、左腓骨体などの骨片がある。  
右寛骨の大坐骨切痕の湾曲は小さい。

なお、この個体には外傷や病変は認められない。

#### 3 まとめ

第1号火葬墓から発見された火葬骨は壮年期男性1個体分である。人骨に外傷や病変は見られない。

図版 第1号火葬墓から検出された人骨



頭蓋骨（左）、第1頸椎（中上）、左右肩甲骨（右上）、右橈骨（右内側）、右尺骨（右外側）、右寛骨（中下）、右大腿骨（右内側）、および左腓骨（右外側）の各骨片

# 写 真 図 版



足洗遺跡遠景（南から北を望む）



足洗遺跡全景（南から北を望む）

図版 2



遺跡中央部の住居跡群（南から北を望む）



遺跡西部の掘立柱建物跡群（北から南を望む）



第1号住居跡



第1号住居跡炉跡



埋甕1号



埋甕1号



集石1号



集石1号

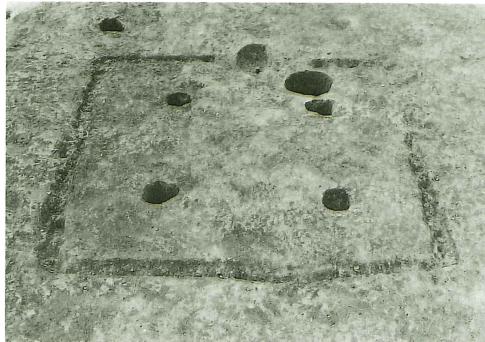


集石2号

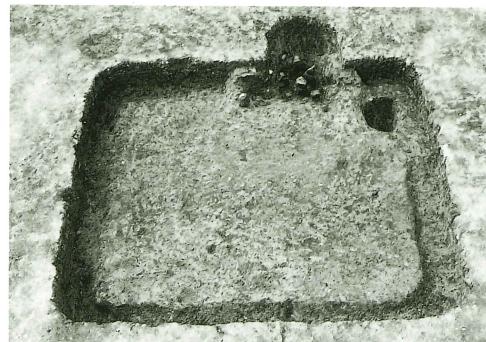


集石3号

図版 4



第2号住居跡



第4号住居跡



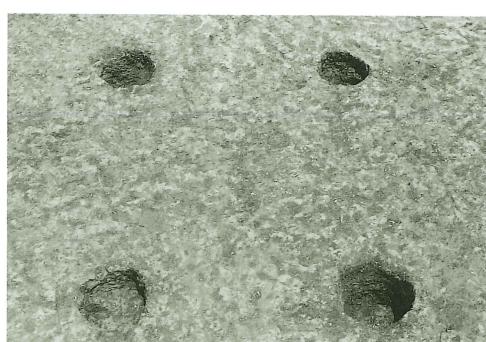
第4号住居跡カマド



第4号住居跡出土遺物



第6号住居跡



第7号住居跡



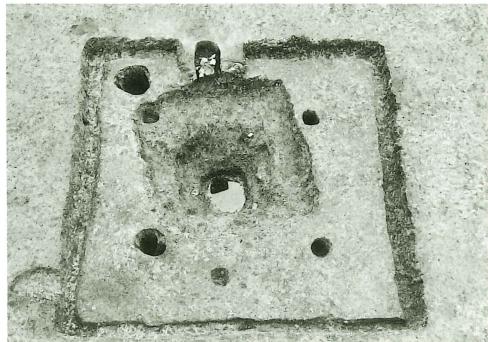
第8号住居跡



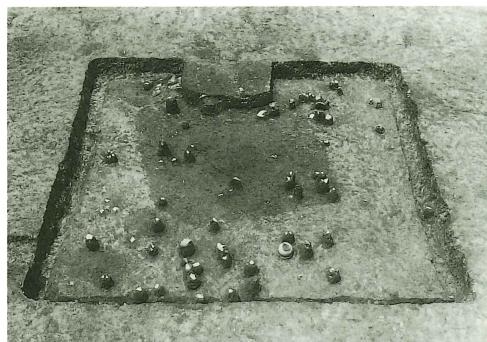
第9号住居跡



第10号住居跡



第11号住居跡



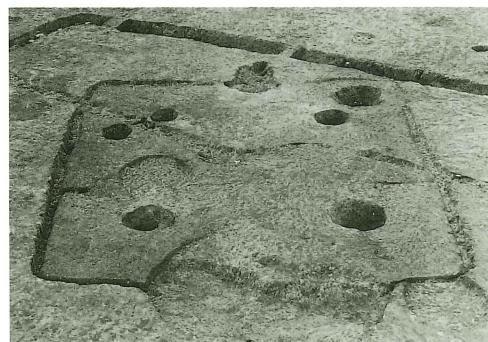
第11号住居跡出土遺物



第11号住居跡カマド



第11号住居跡出土遺物（壺）



第12号住居跡



第12号住居跡カマド



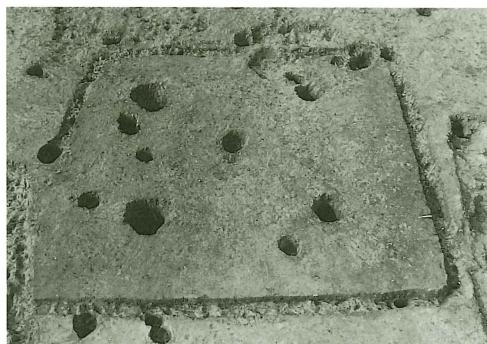
第14号住居跡



第14号住居跡カマド



第14号住居跡掘方



第15号住居跡



第15号住居跡炉跡



第15号住居跡ピット遺物



第16号住居跡



第16号住居跡カマド・貯蔵穴



第17号住居跡



第18・19号住居跡



第18・19号住居跡遺物分布



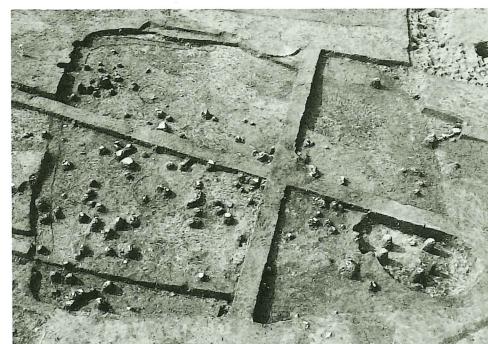
第18号住居跡カマド



第18号住居跡出土遺物（蓋）



第20号住居跡



第20号住居跡遺物分布



第20号住居跡カマド



第20号住居跡貯蔵穴

図版 8



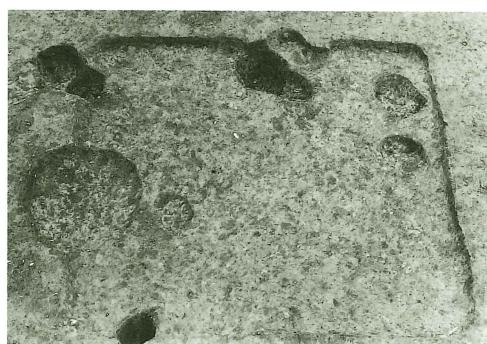
第21・22号住居跡



第21住居跡カマド



第22号住居跡カマド



第23号住居跡



第24号住居跡



第25号住居跡



第26号住居跡



第26号住居跡カマド出土遺物（甕）



第26号住居跡出土遺物



第26号住居跡出土遺物



第26号住居跡出土遺物



第27・28号住居跡



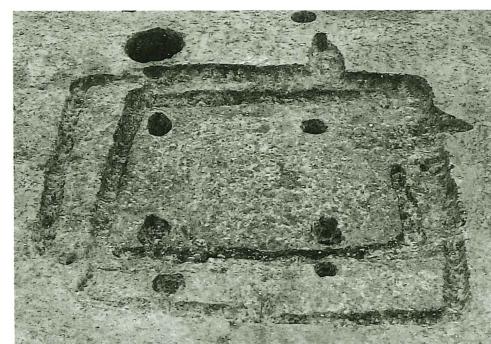
第27号住居跡カマド



第28号住居跡カマド



第27・28号住居跡出土遺物（紡錘車）

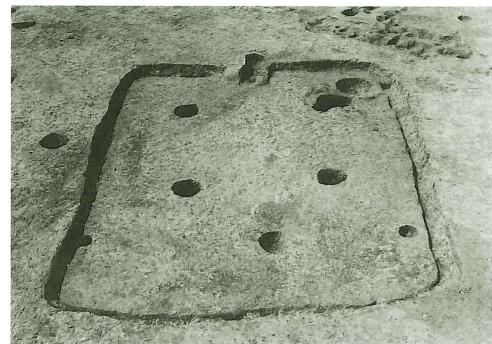


第29・30・31号住居跡

図版 10



第29・30・31号住居跡遺物分布



第32号住居跡



第32号住居跡カマド



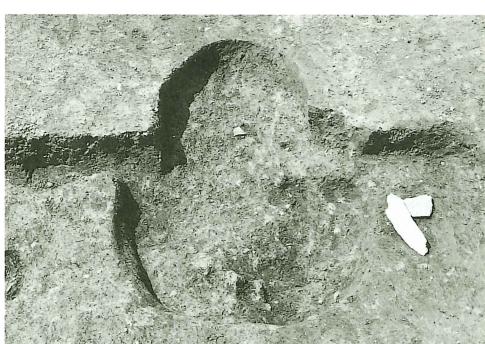
第32号住居跡遺物分布



第32号住居跡掘方



第33号住居跡



第33号住居跡カマド



第34号住居跡



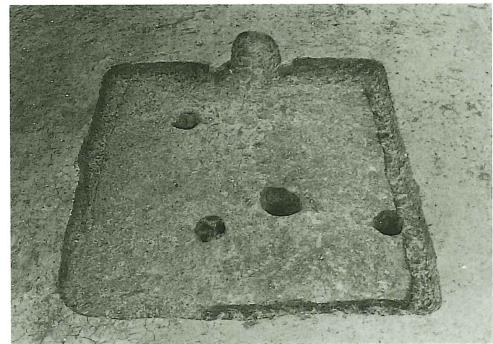
第35号住居跡



第35号住居跡カマド



第35号住居跡貯蔵穴・出土遺物



第36号住居跡



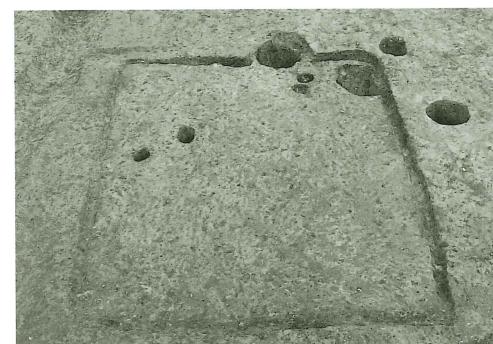
第37号住居跡



第38号住居跡

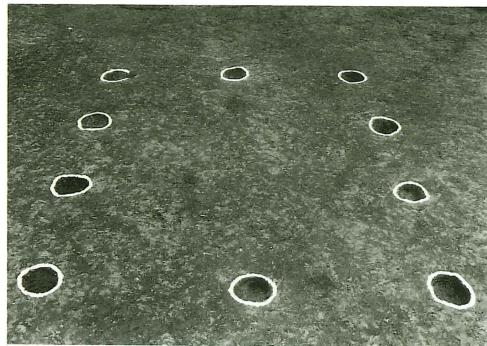
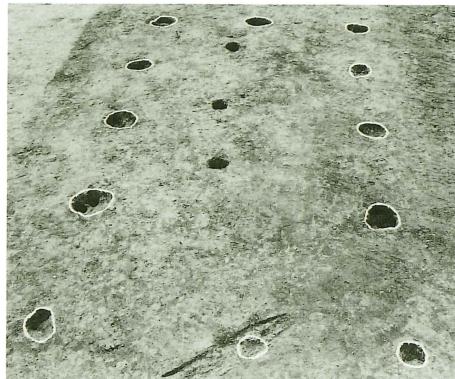


第38号住居跡遺物分布

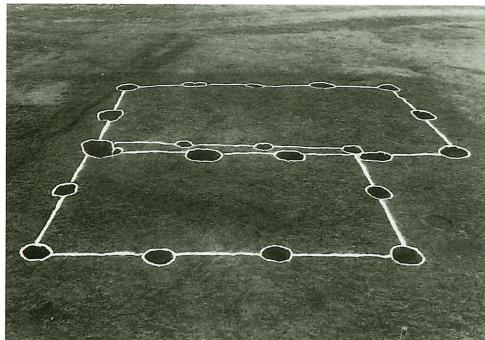


第39号住居跡

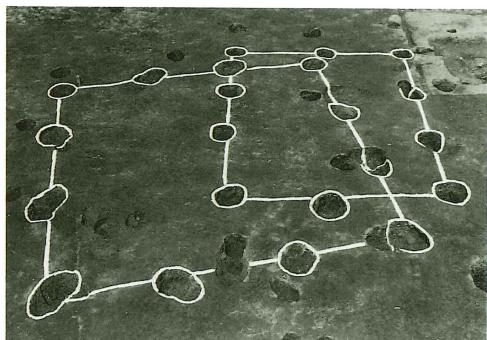
图版 12



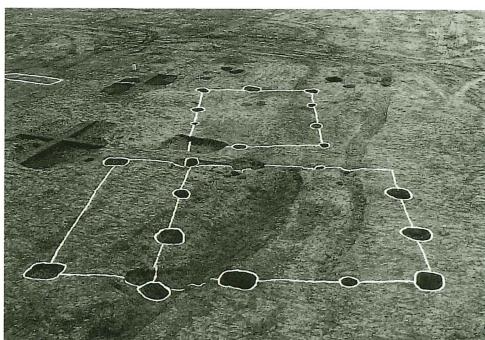
第2号掘立柱建物跡



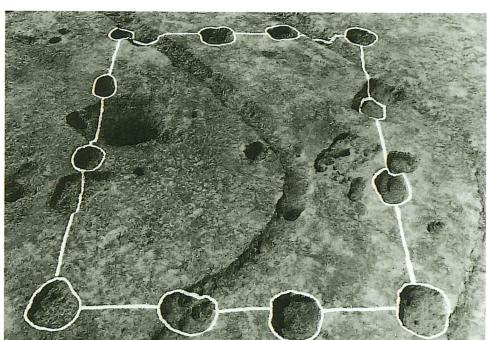
第3・4号掘立柱建物跡



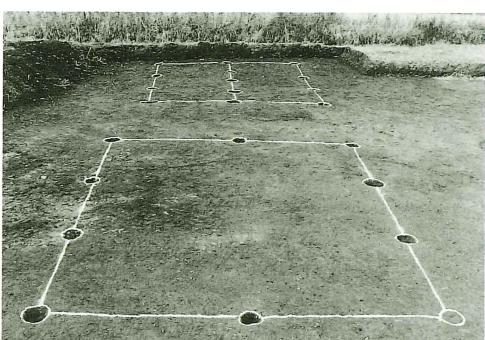
第5・6号掘立柱建物跡



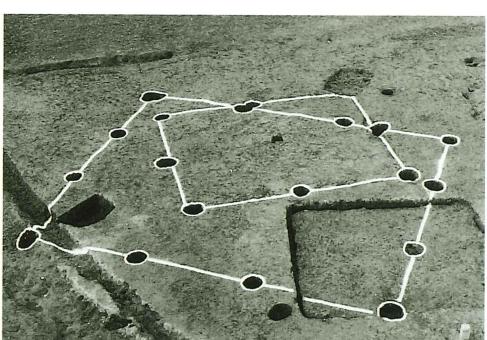
第7・8号掘立柱建物跡



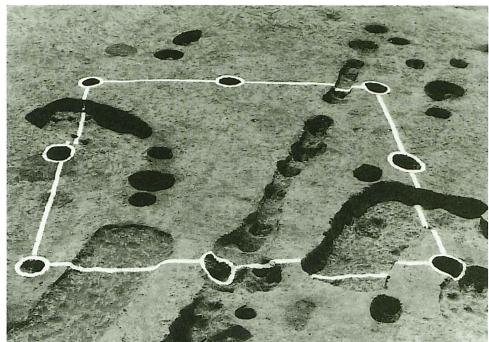
第9号掘立柱建物跡



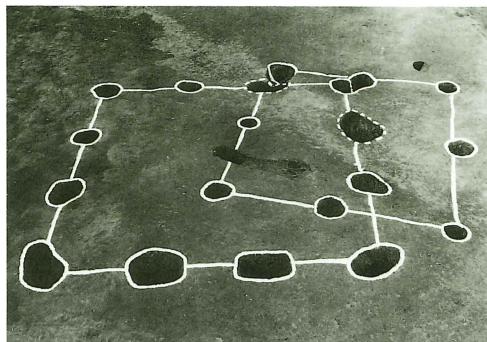
第14・15号掘立柱建物跡



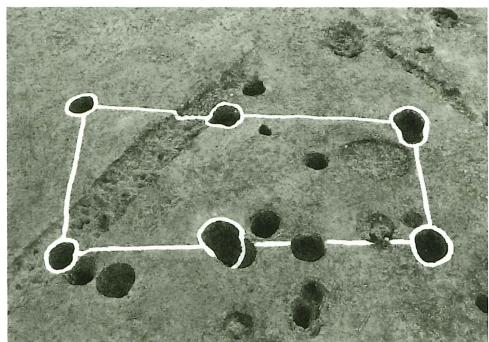
第17・18号掘立柱建物跡



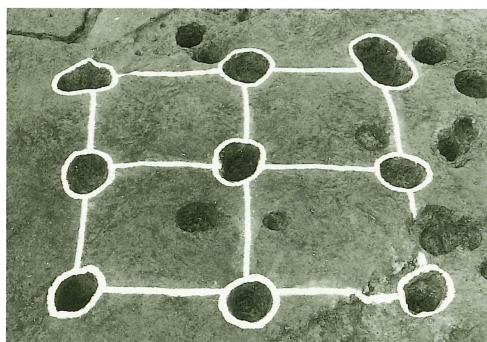
第20号掘立柱建物跡



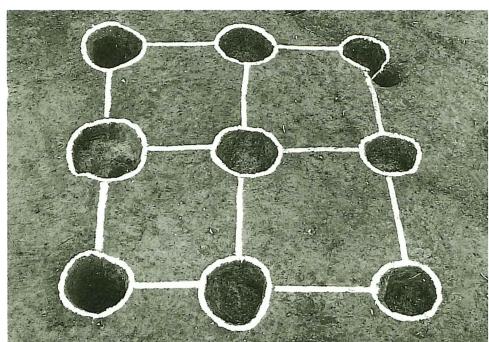
第21・22号掘立柱建物跡



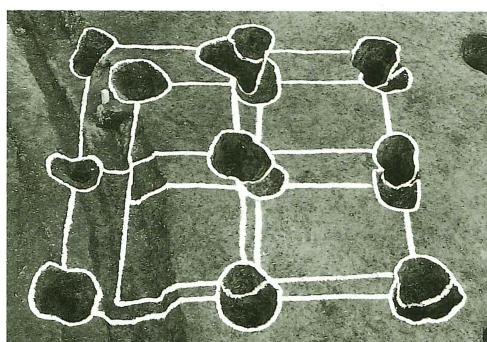
第23号掘立柱建物跡



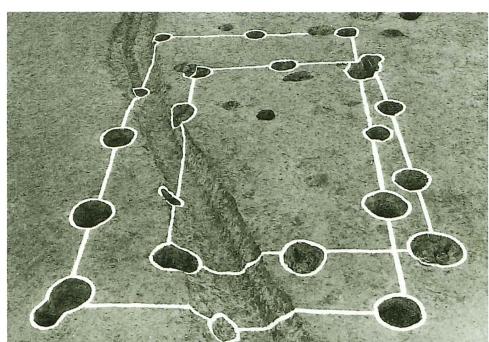
第24号掘立柱建物跡



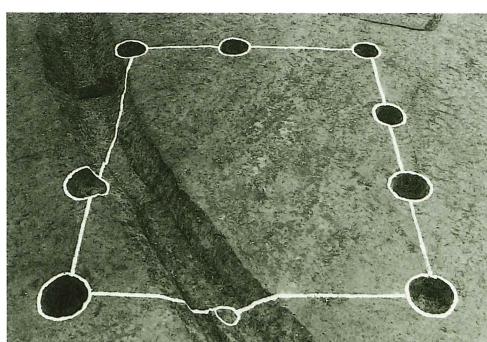
第25号掘立柱建物跡



第26・27号掘立柱建物跡

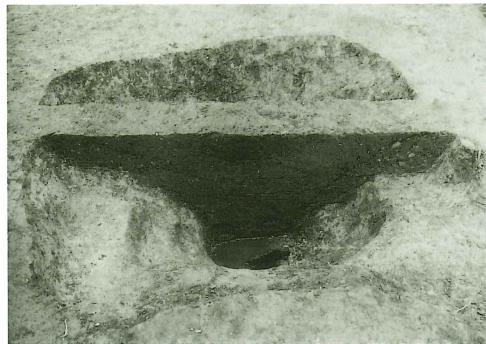


第29・30号掘立柱建物跡



第31号掘立柱建物跡

図版 14



第 1 号井戸跡



第 2 号井戸跡



第 3 号井戸跡



第 4 号井戸跡



第 5 号井戸跡



第 6 号井戸跡



第 7 号井戸跡



第 8 号井戸跡



第9号井戸跡



第11号井戸跡



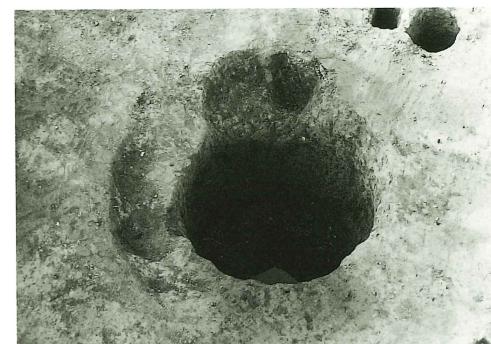
第12号井戸跡



第13号井戸跡



第15号井戸跡



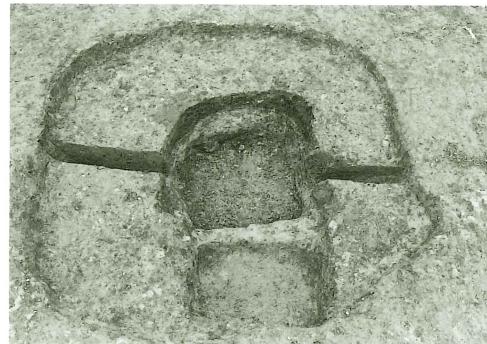
第16号井戸跡



第17号井戸跡



第18号井戸跡



第1号土壙



第1号土壙出土遺物



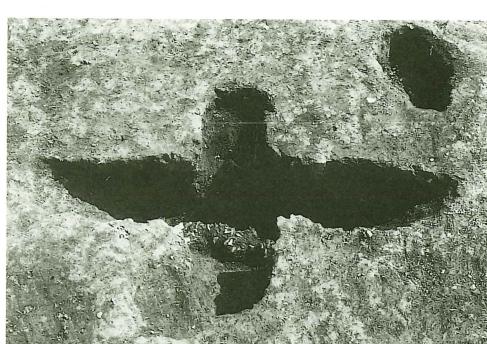
第2号土壙



第3号土壙



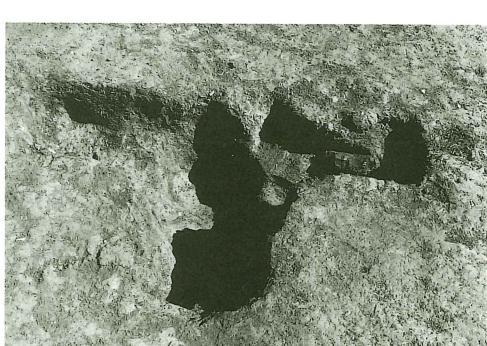
第109・110号土壙



第1号火葬墓



第2号火葬墓



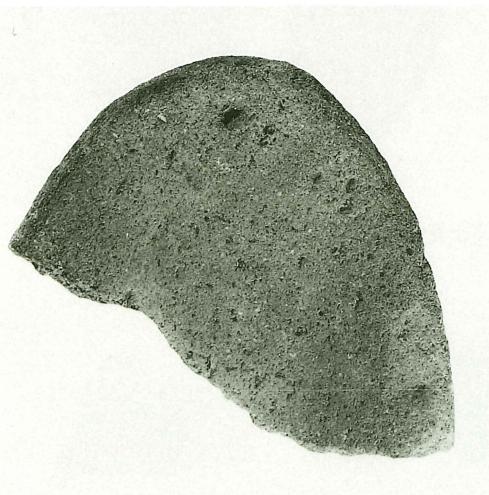
第3号火葬墓



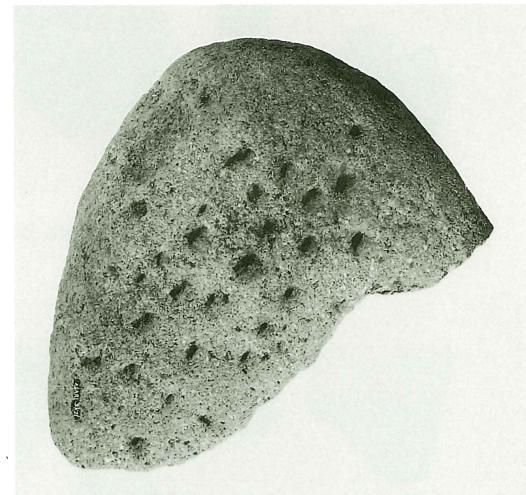
S J 1—埋甕



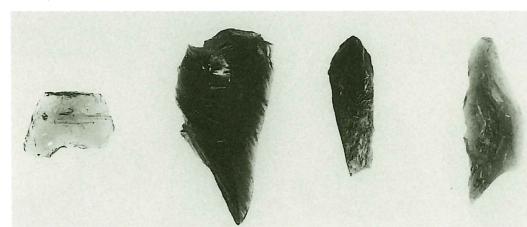
S U 1—埋甕



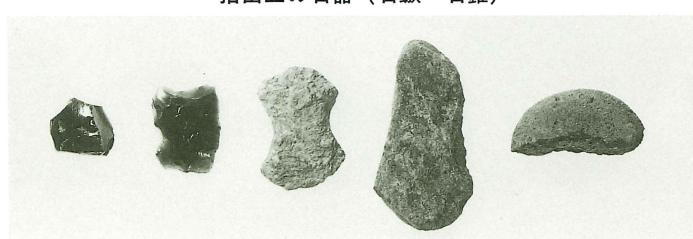
S C 1 出土石器（表面）



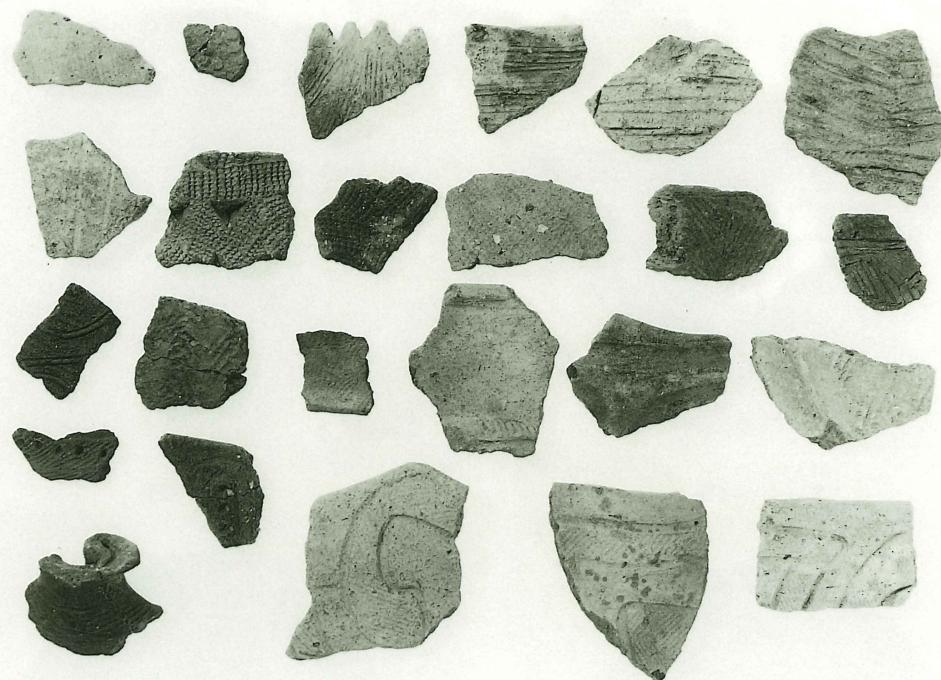
S C 1 出土石器（裏面）



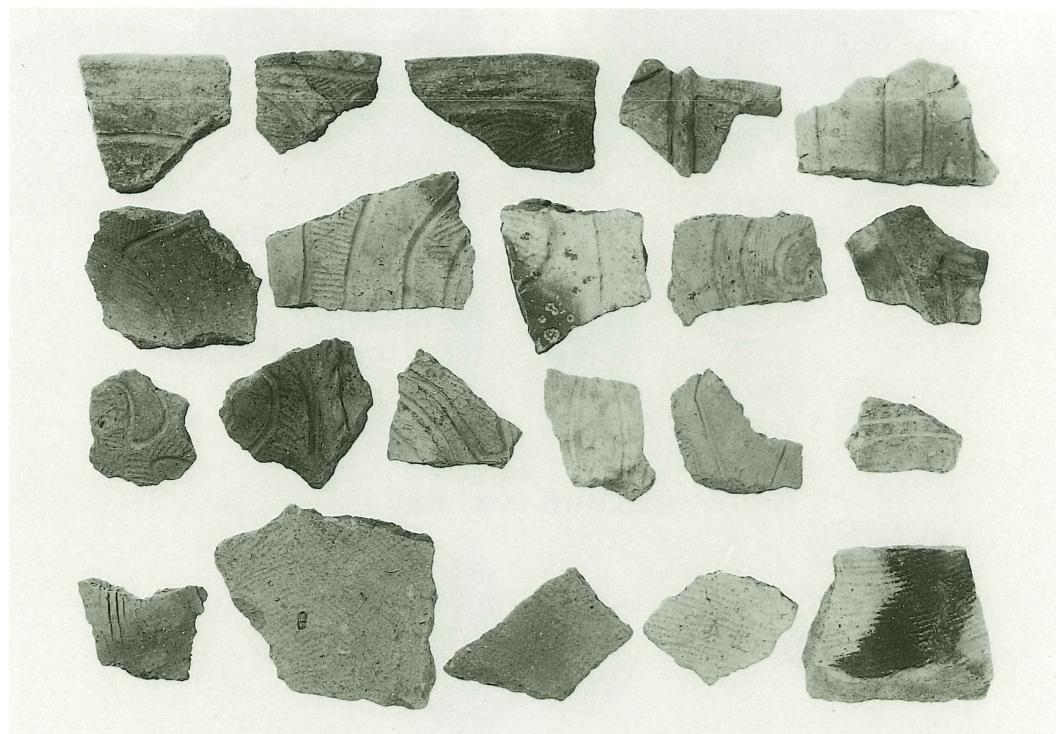
一括出土の石器（石鏃・石錐）



一括出土の石器（黒曜石の原石・搔器・打製石斧・磨石）



一括出土の縄文土器(1)



一括出土の縄文土器(2)



S J 4 - 2



S J 4 - 3



S J 4 - 2・底部の墨書



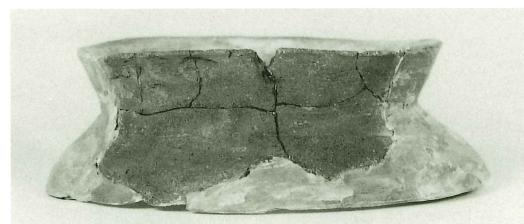
S J 4 - 4



S J 4 - 6



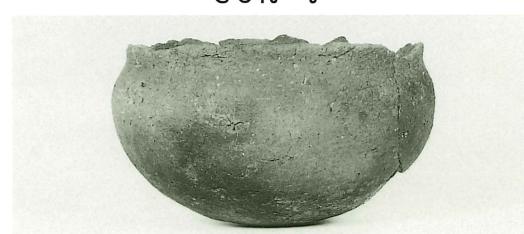
S J 9 - 1



S J 10 - 6



S J 4 - 11



S J 11 - 3



S J11-4



S J11-5



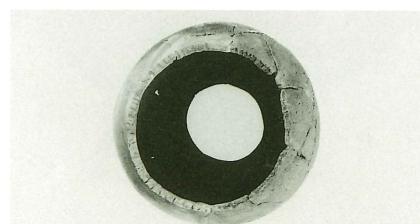
S J11-6



S J11-8



S J11-7



S J11-7・粘土紐積上げ時の接合痕



S J11-7・粘土紐積上げ時の接合痕



S J12-1



S J14-1



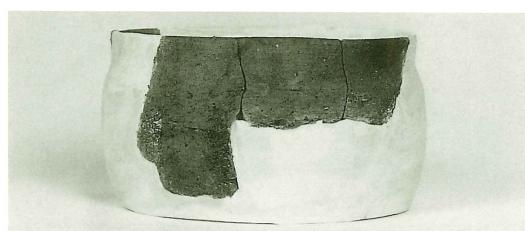
S J14-2



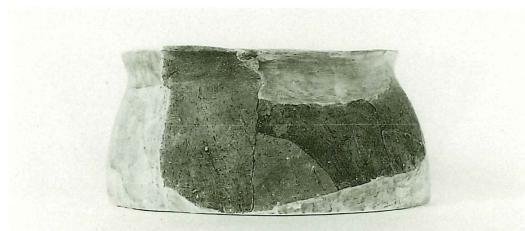
S J14-3



S J14-5



S J14-6



S J14-8



S J14-11



S J15-2



S J14-11



S J16-1



S J16-2



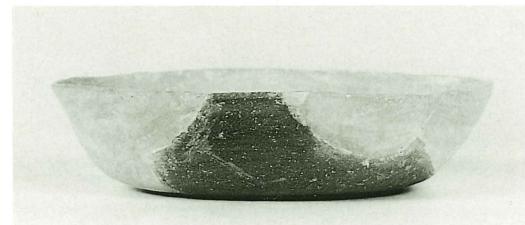
S J 16- 4



S J 16- 7



S J 18- 3



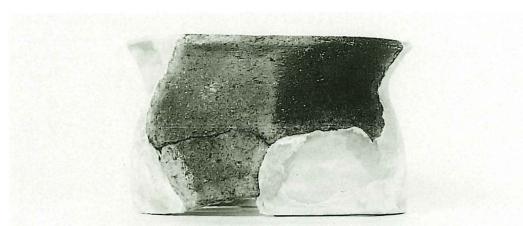
S J 18- 4



S J 18- 6



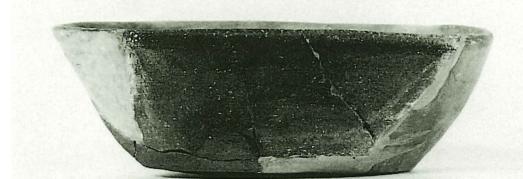
S J 18- 7



S J 18- 8



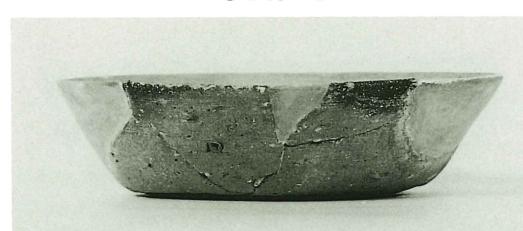
S J 19- 1



S J 19- 2



S J 19- 3



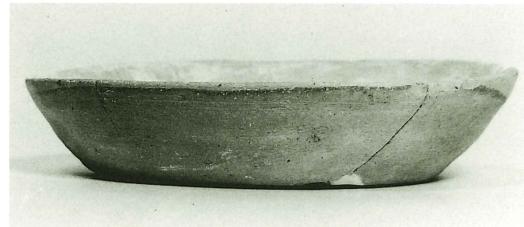
S J 19- 4



S J 20- 2



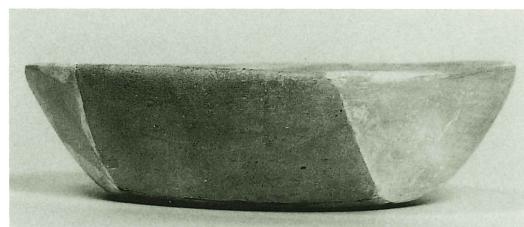
S J 20-4



S J 20-6



S J 20-9



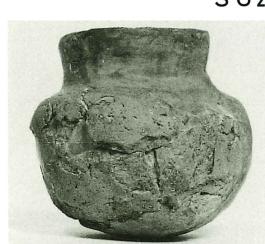
S J 20-10



S J 20-12



S J 20-13



S J 20-16



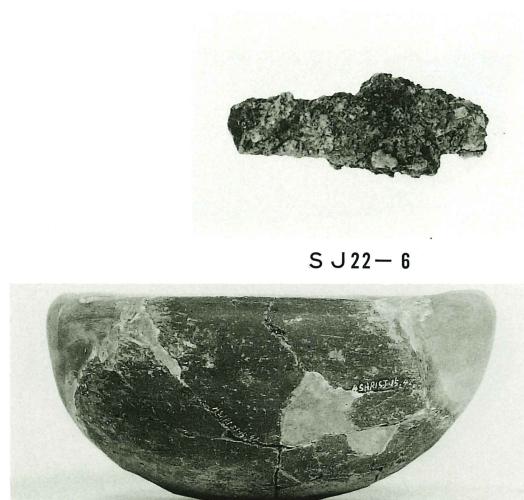
S J 22-4



S J 22-5



S J 22-3



S J 23-1

図版 24



S J 24-1



S J 24-4



S J 24-5



S J 25-1



S J 25-2



S J 25-5



S J 26-1



S J 26-5



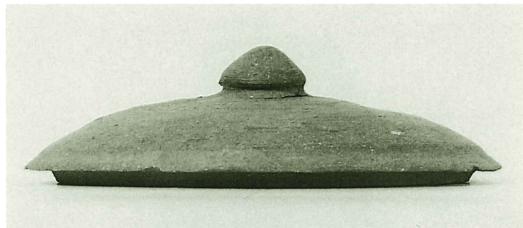
S J 26-4



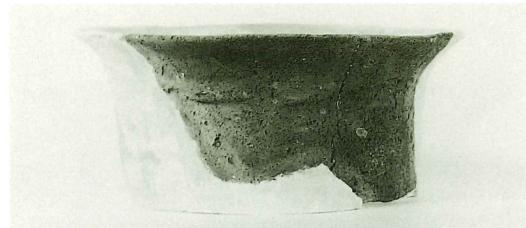
S J 26-11



S J 26-12



S J 26-13



S J 26-15



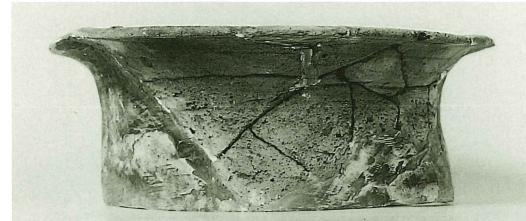
S J 26-14



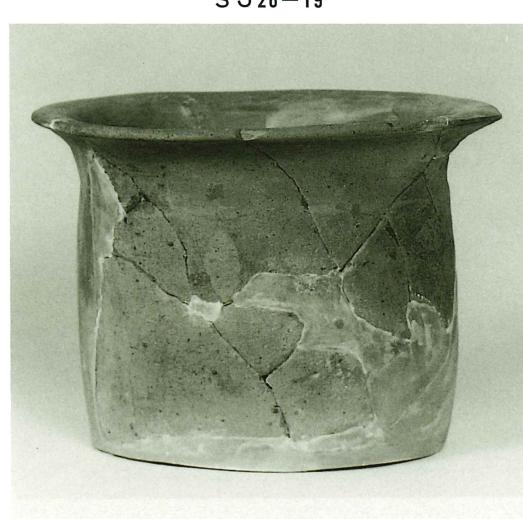
S J 26-16



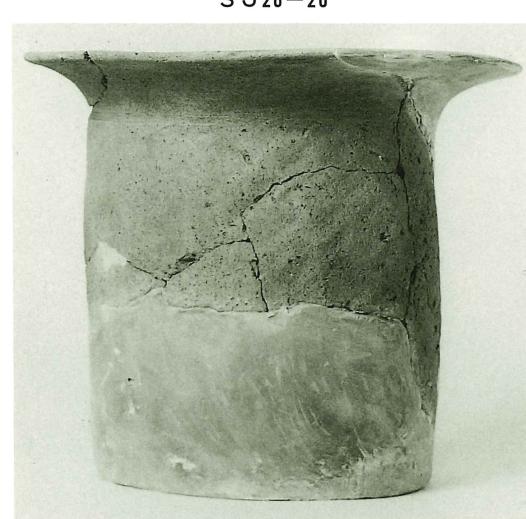
S J 26-18



S J 26-20



S J 26-22



S J 26-23



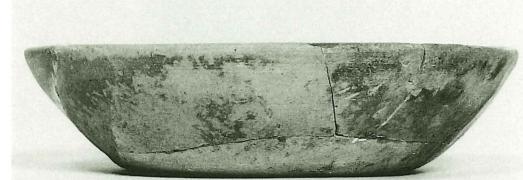
S J 26-24



S J 26-28



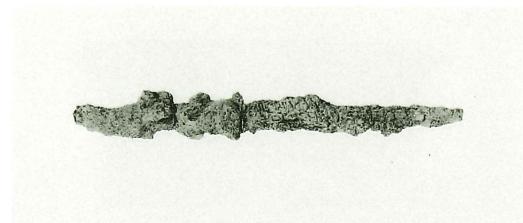
S J 27・28-2



S J 27・28-8



S J 27・28-23



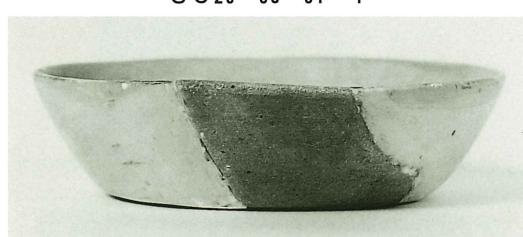
S J 27・28-24



S J 29・30・31-1



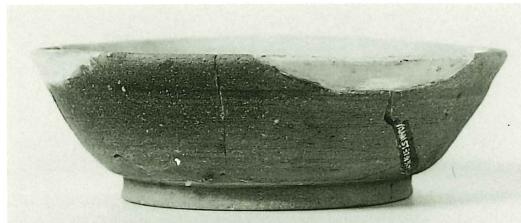
S J 29・30・31-2



S J 29・30・31-4



S J 29・30・31-5



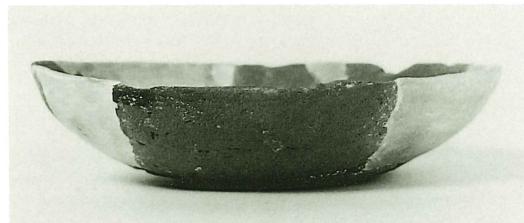
S J 29・30・31-6



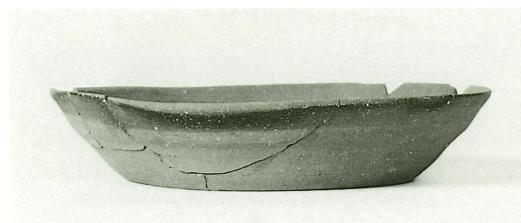
S J 32-1



S J 32-2



S J 32-3



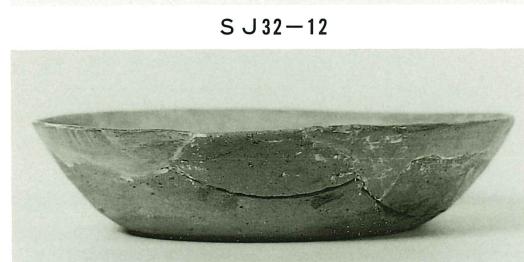
S J 32-11



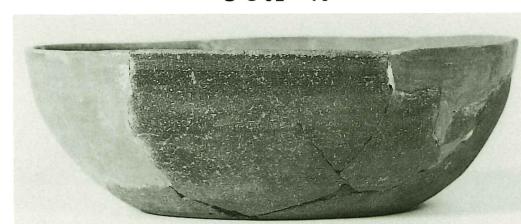
S J 32-12



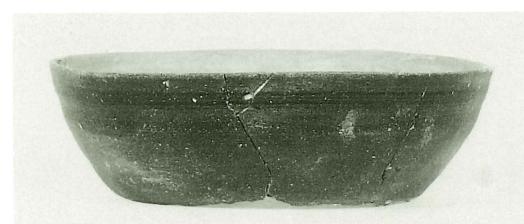
S J 32-13



S J 32-14



S J 32-20



S J 32-21



S J 32-29



S J 35-1



S J 35- 2



S J 35- 3



S J 35- 4



S J 36- 3



S J 38- 3



S E 8- 1



S E 18- 2



S E 18- 3



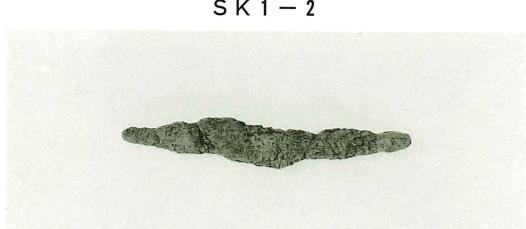
S K 1- 1



S K 1- 2



S K 1- 3



S K 186 · 一括



ST 1 出土骨片



ST 1-1 鉄製品



铸造-6 羽口 (外面)



铸造-6 羽口 (内面)



その他-11



铸造-7 羽口



その他-12



その他-13



その他-14 鉄製紡錘車



その他-15 開通元宝



その他-16 紹興元宝

足洗遺跡報告書抄録

フリガナ	アシアライイセキ		
遺跡名	足洗遺跡		
所在地	坂戸市大字新堀字足洗 5 2 2 番地他		
コード	11239-117		
調査規模	16,000m <sup>2</sup>		
調査年月日	1989年4月1日～1989年10月31日		
調査原因	土地区画整理事業	文化庁通知	委保第5の1068
遺物の保管	埼玉県教育委員会	遺物の所在	埼玉県立埋蔵文化財センター
X Y座標	X = -3,660m	Y = -41,224m	
北緯東経	北緯 35°90'	東経 139°22'50"	
立地	毛呂台地	標高 27m	
水系	荒川水系 越辺川		
遺跡種類	集落跡		
主な時代	主な遺構	主な遺物	
縄文後期	住居跡 1軒	縄文土器 石皿 石鏃 搔器	
	埋甕 1基	石錐 打製石斧	
	集石土壙 3基		
古墳後期～奈良時代	住居跡 38軒	土師器 (壺・壺・甕)	
	掘立柱建物跡 24軒	須恵器 (壺・椀・蓋・甕)	
	井戸跡 9基	紡錘車 刀子	
	土壙 25基		
中世	掘立柱建物跡 7軒	内耳鍋 鉢 水滴 甕	
	井戸跡 6基	鉄滓 羽口	
	溝跡 21条	板碑 古銭	
	火葬墓 5基		
	土壙 14基		

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第136集

足洗遺跡

住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

-VII-

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月31日 発行

発行 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-01 埼玉県大里郡大里村大字箕輪字船木884

電話 0493-39-3955

印刷 株式会社太陽美術

